



本市では、複雑・多様化する環境問題に対し、総合的かつ長期的な目標及び施策の方向を定めるため、令和8年度を始期とする「郡山市第五次環境基本計画〔令和8（2026）年度～令和11（2029）年度〕」策定に向けた検討を行っています。

市民の皆さまの環境に関する関心や取組の実態についてお伺いし、今後の取組に向けて参考にさせていただくためアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。（環境政策課）

【調査結果】

- 調査期間 2025年7月22日(火)～7月31日(木) (10日間)
- モニター数 427名 (男性 185名 女性 241名 不明 1名)
- 回答者数 376名 (男性 159名 女性 216名 不明 1名)
- 回答率 88.1%

【分析】

《回答者内訳》

(人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	全体
男性	2	4	11	29	40	35	24	14	159
女性	7	7	26	61	62	42	10	1	216
不明	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	9	12	37	90	102	77	34	15	376

《第1章 環境の現状について》

- ・気候変動（地球温暖化）による影響について、全体の48.1%が「とても影響が出ている」と回答。（問1）
- ・再生可能エネルギーの普及状況について、全体の60.1%が「進んでいる」「ある程度進んでいる」と回答。（問2）
- ・ごみの分別やリサイクルの実施状況について、全体の52.6%が「良くなっている」「どちらかというとな良くなっている」と回答。（問3）
- ・ごみのポイ捨て、廃棄物の不法投棄について、全体の47.3%が「変わらない」と回答。（問4）
- ・地域や学校での環境教育について、全体の49.7%が「行われている」「ある程度行われている」と回答。（問12）

《第2章 環境の取り組みについて》

- ・日常生活で環境に配慮している取り組みとして、全体の85.4%が「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」と回答。（問14）
- ・過去1年以内の環境保全活動への参加有無について、全体の79.3%が「参加したことはない」と回答。（問15）

《第3章 郡山市の環境施策について》

- ・サーキュラーエコノミーについて、全体の77.4%が「今回のアンケートで初めて知った」と回答。（問19）
- ・郡山市が今後力をいれるべき取り組みについて、全体の62.2%が「食品ロスを含むごみの減量化」、全体の55.9%が「プラスチックなどのリサイクルの推進」と回答。（問21）

【考察】

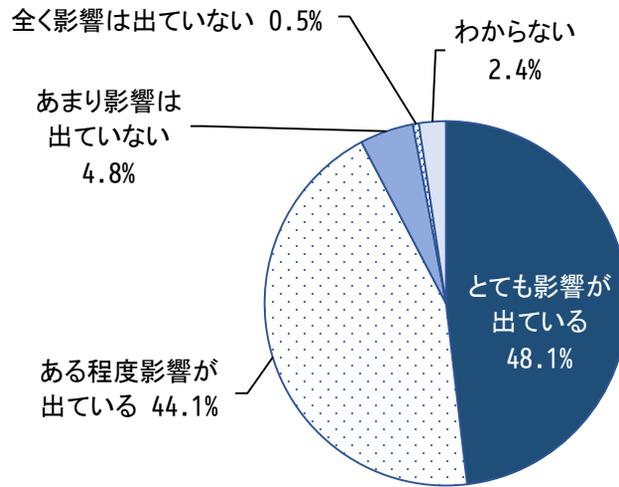
- ・気候変動（地球温暖化）による影響を市民の大半が感じている状況にあるが、特に若い世代において地球温暖化対策の一環である再生可能エネルギーの普及を実感しづらい現状がある（問2）。また、ポイ捨てや不法投棄（問4）、自然環境（問6）・大気環境（問8）・土壌環境（問9）については状況がここ4～5年で変化していないと認識する市民も多い。環境教育などに努め、環境対策に対する意識の向上や、環境の変化を実感できるような施策が必要である。
- ・環境保全活動への過去1年以内の参加率は20.7%（問15）となっているのに対し、今後の参加について「積極的に参加したい」「都合のつく範囲で参加したい」と回答した市民が81.7%（問17）と多いことから、環境保全活動への関心はあると思われるが、日程の都合がつかないといった状況があると推測される。
- ・サーキュラーエコノミーの概念の浸透が課題となっている（問19）。一方、市の環境政策で知っている取り組みとして「猪苗代湖岸クリーンアップ作戦」が最上位にのぼり（問20）、ラムサール条約湿地登録を契機とした猪苗代湖の自然環境の保全等の取り組みの加速が必要である。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
 ※棒グラフのn=〇〇は回答者数を示します。

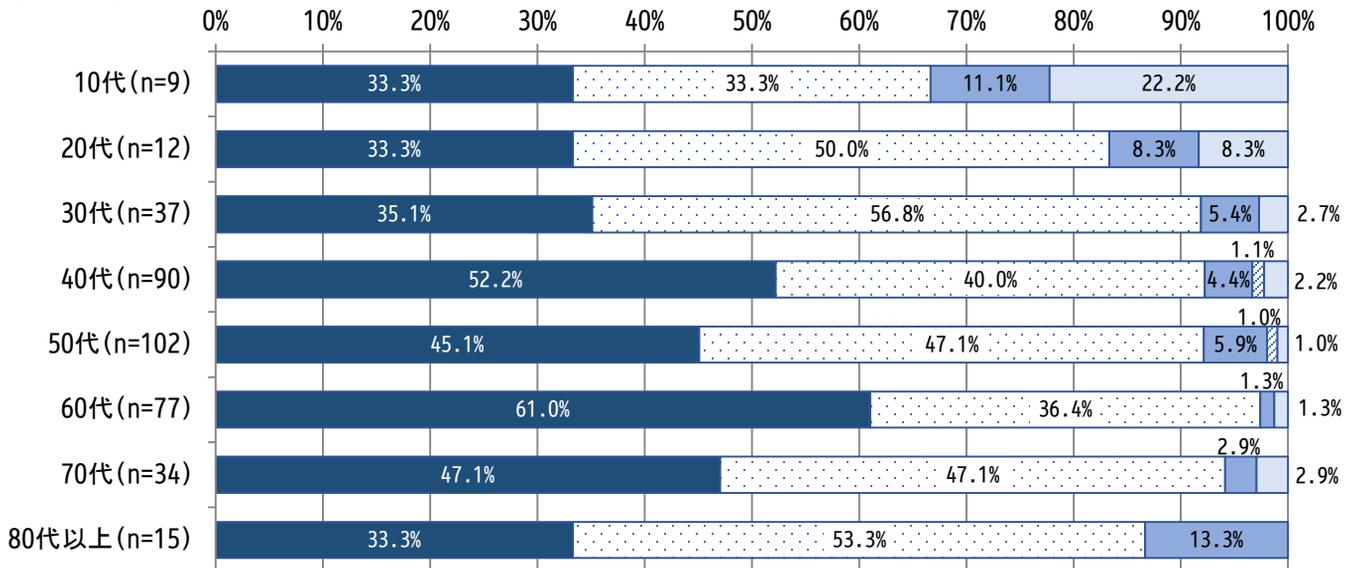
第1章 環境の現状について

問1 気候変動（地球温暖化）が、あなたの生活に影響を与えていると感じますか？
 （1つ選択）

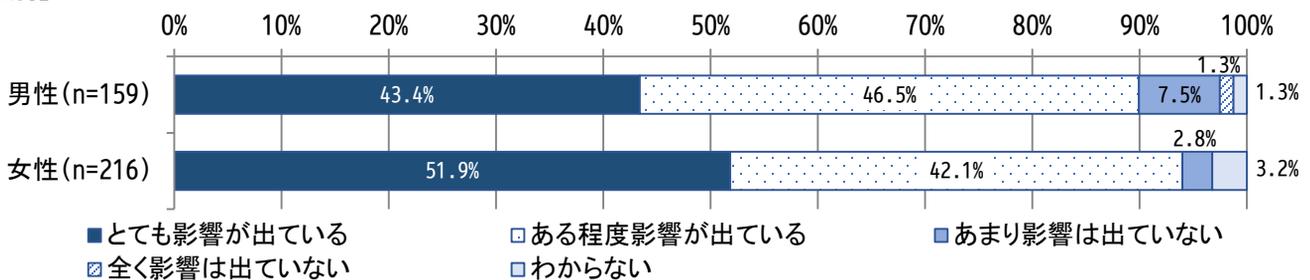
（回答者：376人）



【年代別】



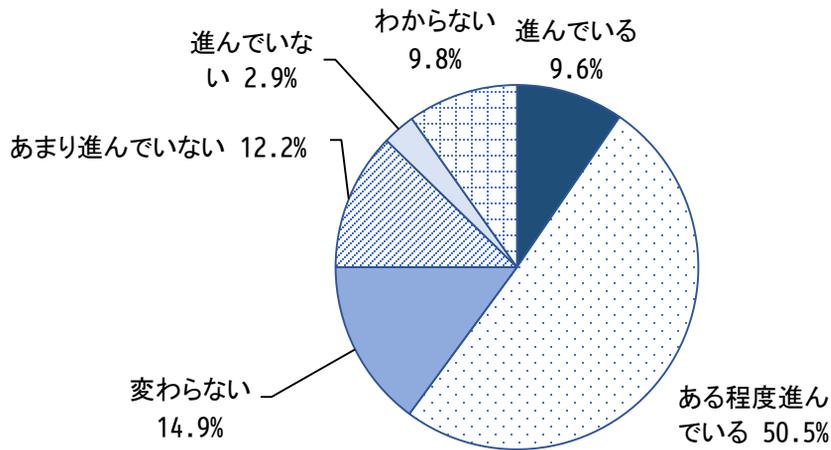
【性別】



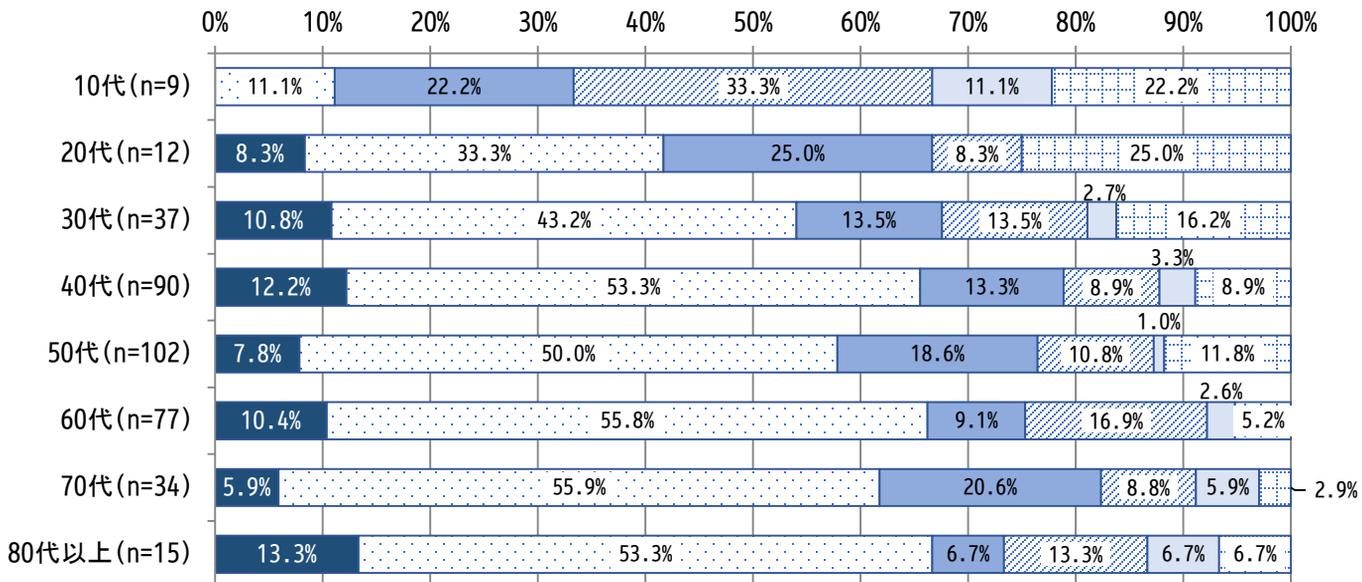
- ①「とても影響が出ている」と回答した方は全体の48.1%、「ある程度影響が出ている」と回答した方は全体の44.1%であった。
- ②年代別では40代、60代において「とても影響が出ている」と回答した割合が高かった。また、男性よりも女性の方が影響が出ていると感じた割合が高かった。
 →影響を感じている方は全体の9割以上にのぼり、影響を和らげるための対策が急務であると考えられる。

問2 太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの普及状況についてどう感じていますか？（1つ選択）

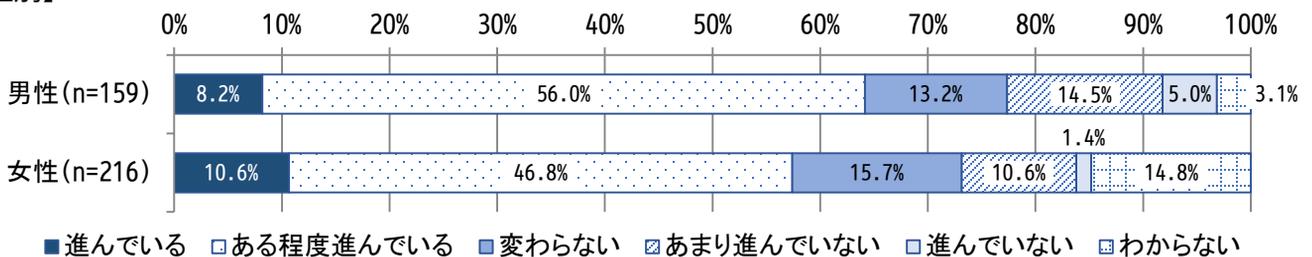
（回答者：376人）



【年代別】



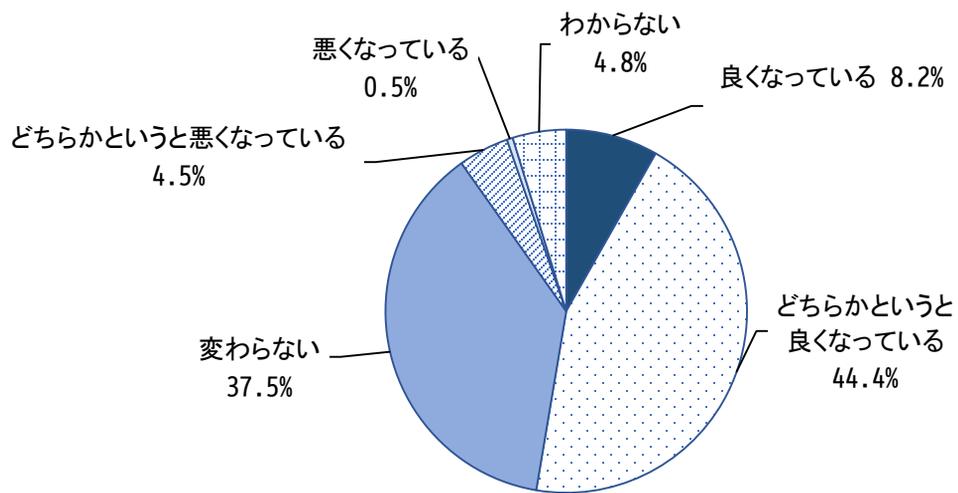
【性別】



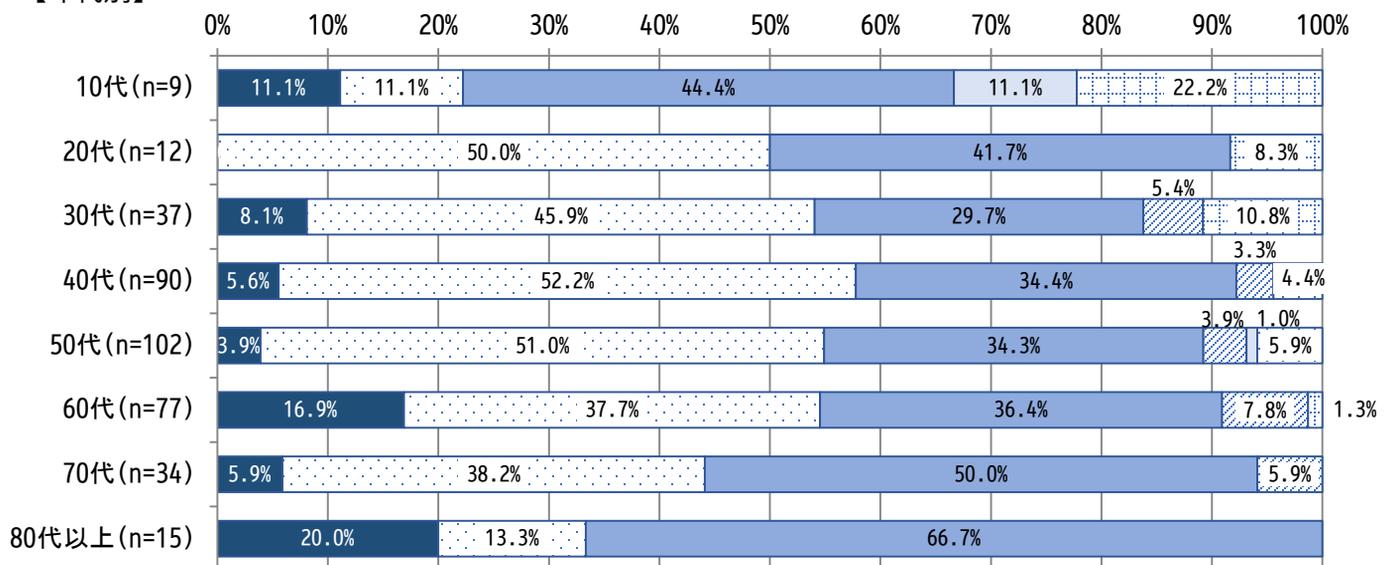
- ① 「ある程度進んでいる」と回答した方は全体の50.5%、「変わらない」と回答した方は全体の14.9%であった。
- ② 年代別では30代以上において半数以上が「進んでいる」「ある程度進んでいる」と回答した。また、女性よりも男性の方が進んでいると感じた割合が高かった。
- 若い世代が再生可能エネルギーの普及を実感できる機会が少ないと考えられる。

問3 ごみの分別やリサイクルの実施状況についてどう感じていますか？
(1つ選択)

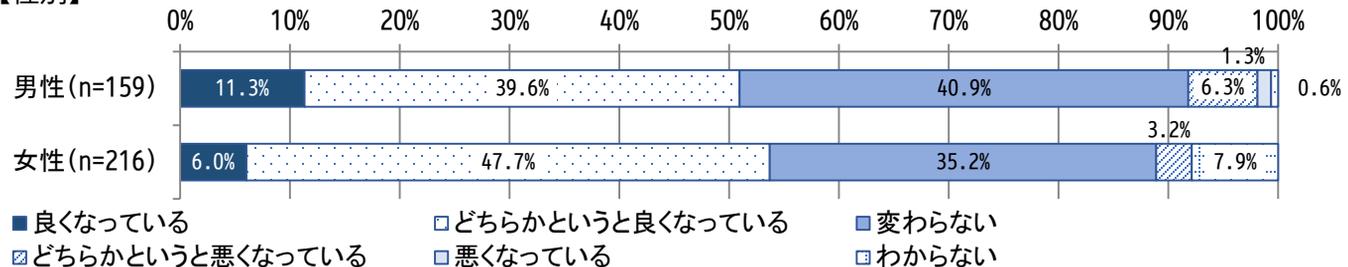
(回答者：376人)



【年代別】

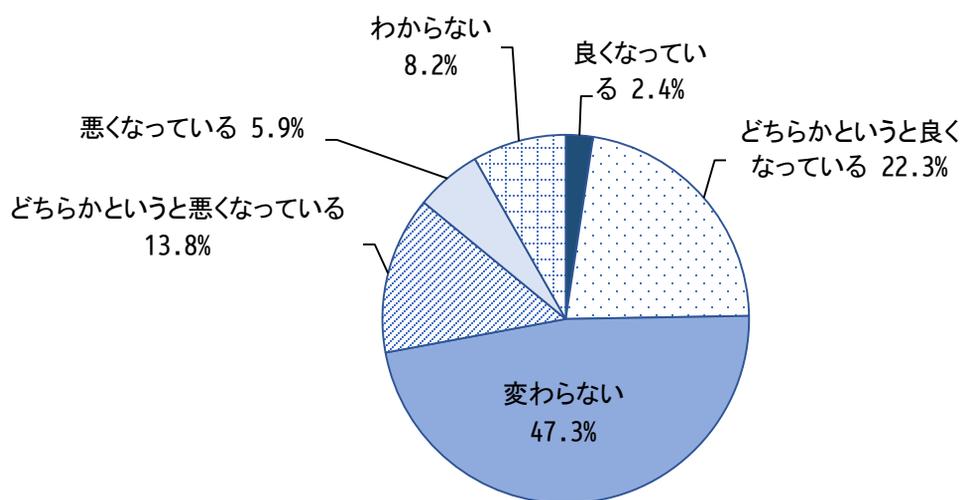


【性別】

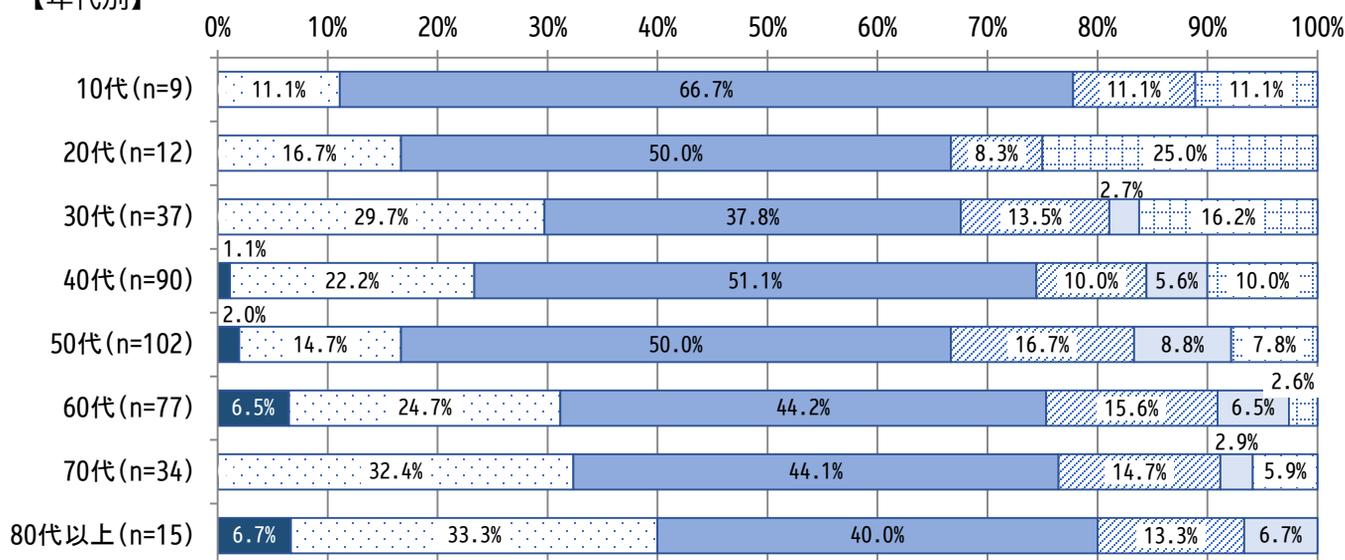


- ① 「どちらかというと良くなっている」と回答した方は全体の44.4%、「変わらない」と回答した方は全体の37.5%であった。
- ② 年代別では20代から50代において「どちらかというと良くなっている」と回答した割合が高かった。
→悪くなったと感じる市民は少ないことが読み取れる。

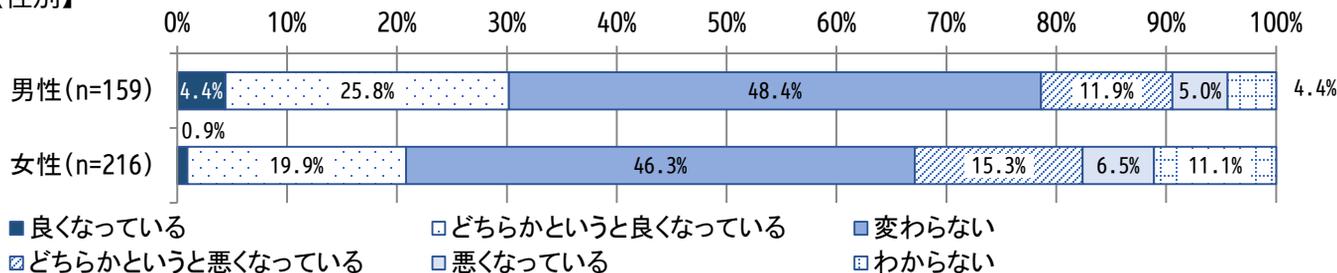
問4 ごみのポイ捨て、廃棄物の不法投棄についてどう感じていますか？
(1つ選択)



【年代別】



【性別】



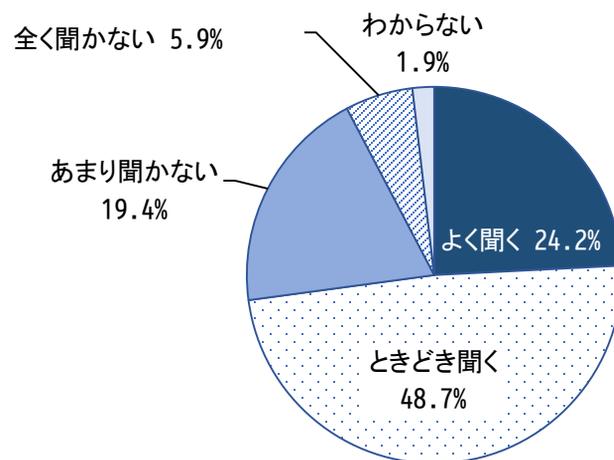
① 「変わらない」と回答した方は全体の47.3%、「どちらかというともよくなっている」と回答した方は全体の22.3%であった。

② どの年代でも「変わらない」と回答した割合が高いが、50代、60代において「どちらかというともよくなっている」と「悪くなっている」と回答した割合が高くなっている。女性よりも男性の方が「どちらかというともよくなっている」と「良くなっている」と回答した割合が高かった。

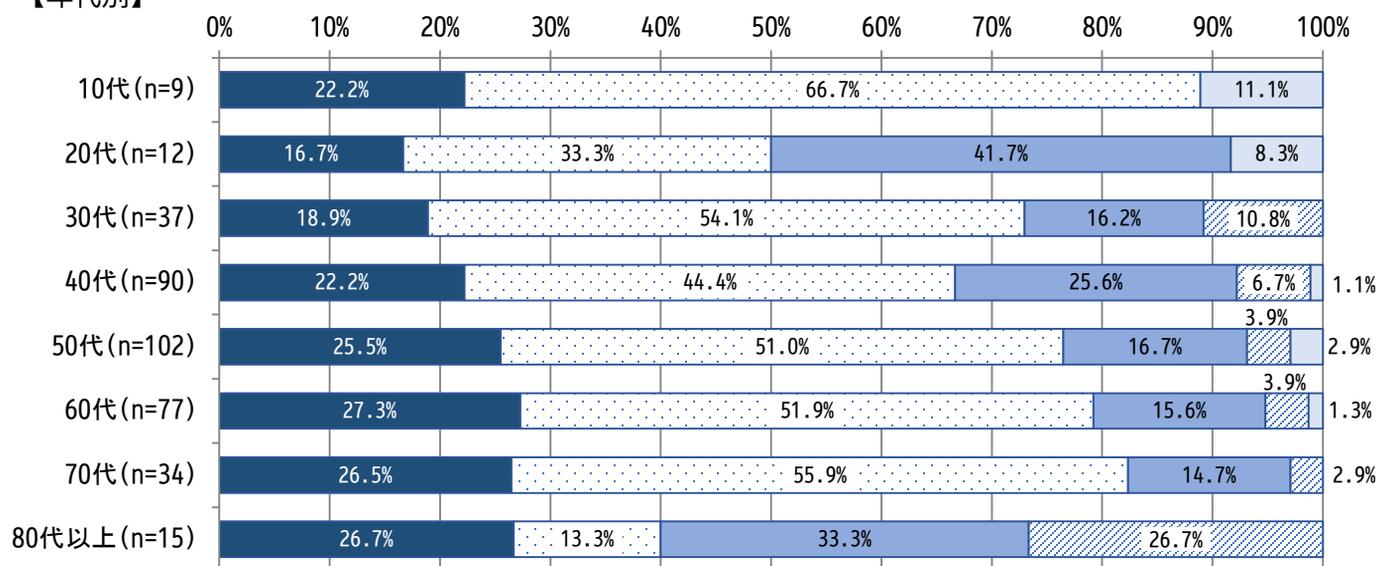
→ごみのポイ捨てや廃棄物の不法投棄について、改善されていると感じる人は少ないことが読み取れる。

問5 カッコウやウグイスなどの鳴き声を聞く機会がありますか？
(1つ選択)

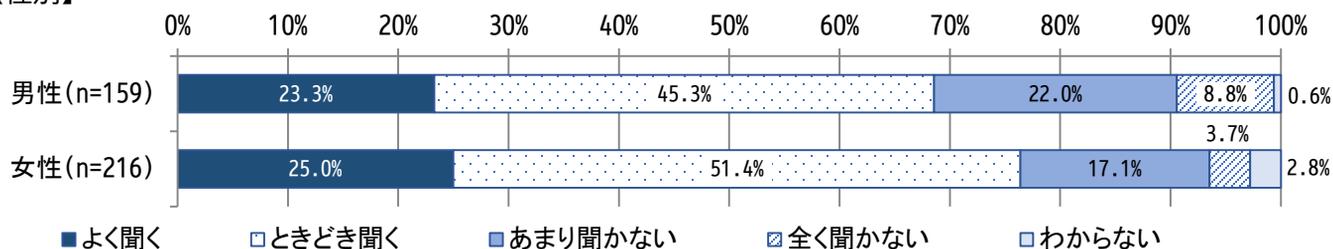
(回答者：376人)



【年代別】



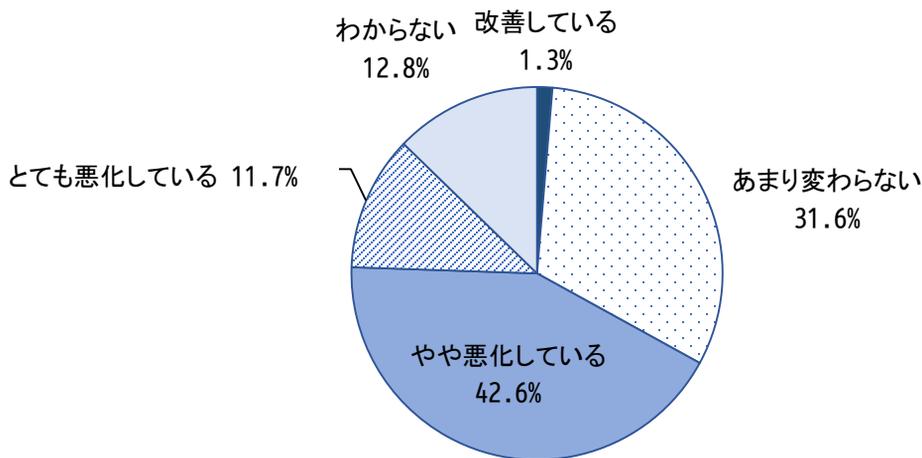
【性別】



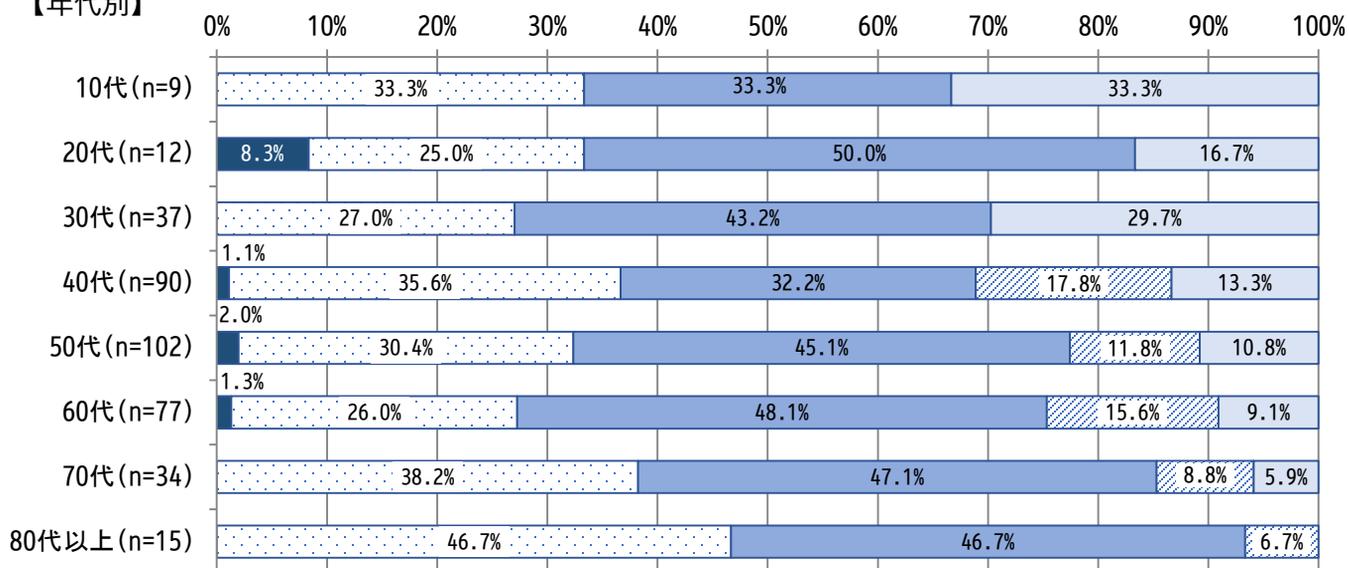
- ① 「よく聞く」と回答した方は全体の24.2%、「ときどき聞く」と回答した方は全体の48.7%、「あまり聞かない」と回答した方は全体の19.4%であった。
- ② 年代別では20代、80代以上において「あまり聞かない」と回答した割合が高かった。
- 多くの市民がカッコウやウグイスの声を日常の中で聞いており、地域において生態系が保たれ、自然環境が比較的良好に保たれていると考えられる。

問6 森林伐採や田畑の荒廃などの自然環境の変化についてどう感じていますか？
(1つ選択)

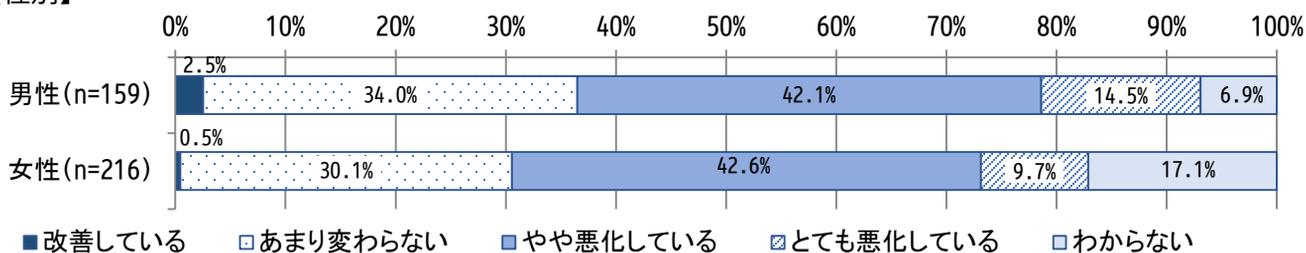
(回答者：376人)



【年代別】



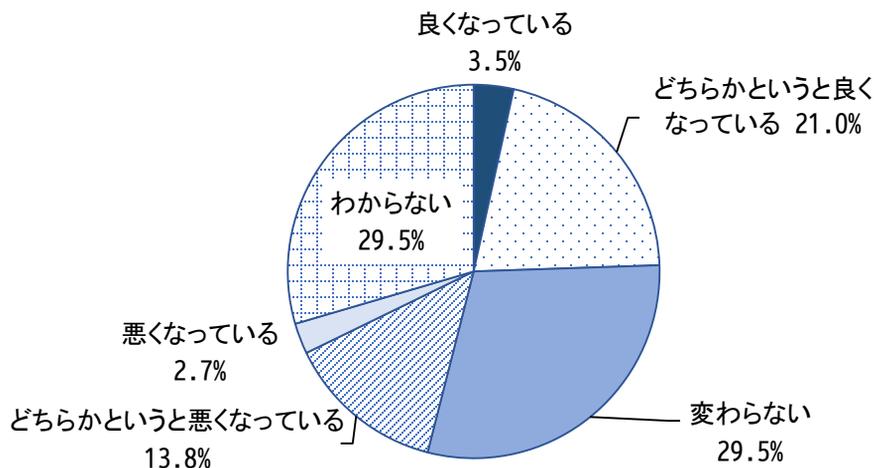
【性別】



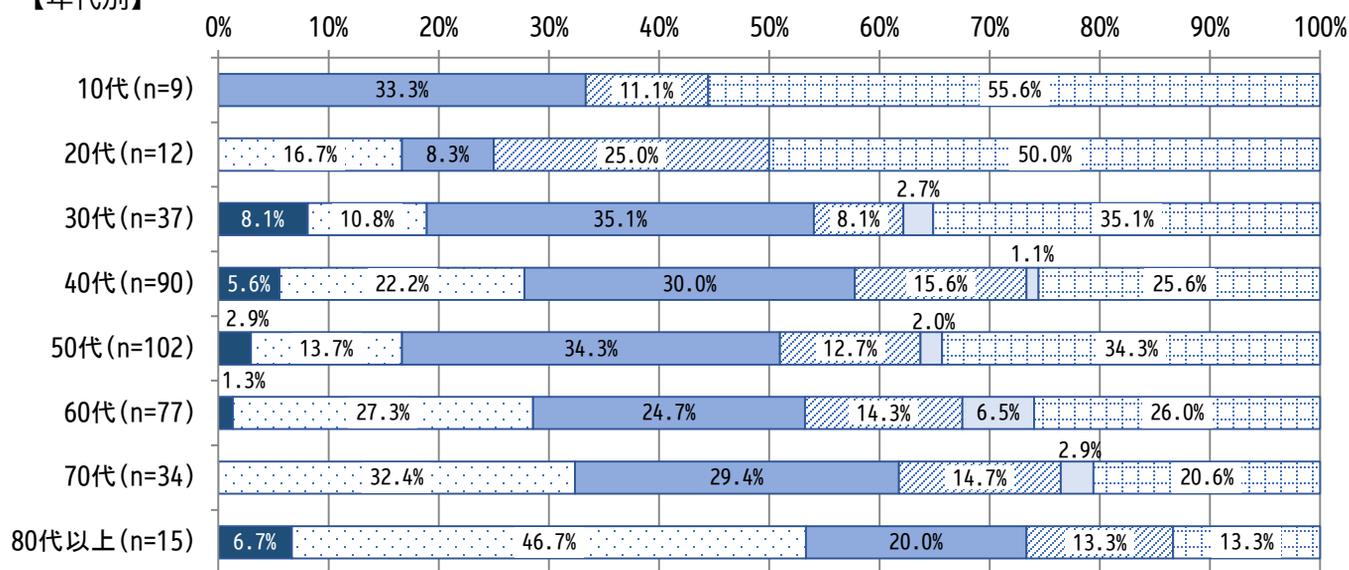
- ① 「やや悪化している」と回答した方は全体の42.6%、「あまり変わらない」と回答した方は全体の31.6%であった。
- ② 年代別では、40代以上で「やや悪化している」「とても悪化している」という回答が多かった。
→悪化を感じている方は全体の5割以上にのぼり、自然環境の保全・再生の取り組みが必要であると考えられる。

問7 猪苗代湖の水環境（透明度・きれいさ・おいなど）について
どう感じていますか？（1つ選択）

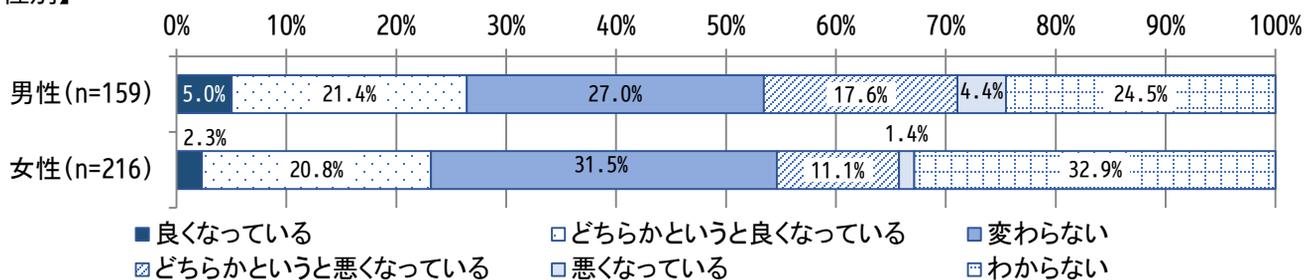
（回答者：376人）



【年代別】



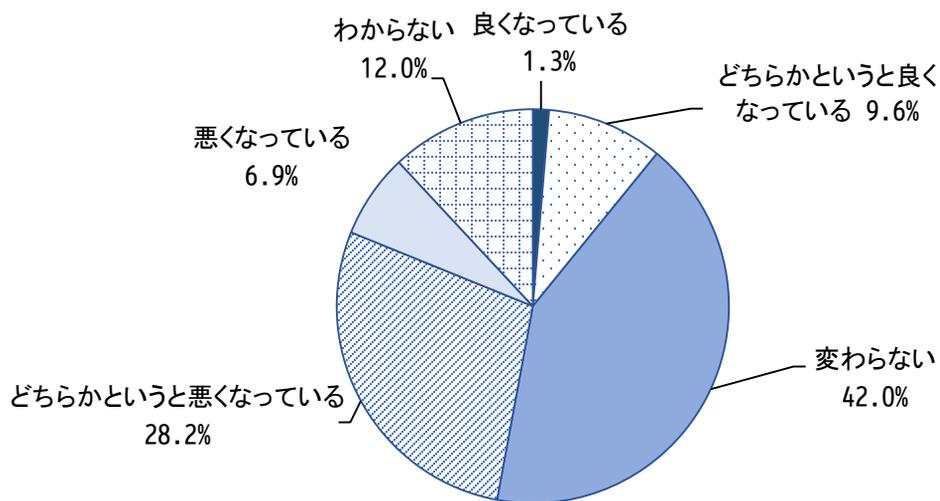
【性別】



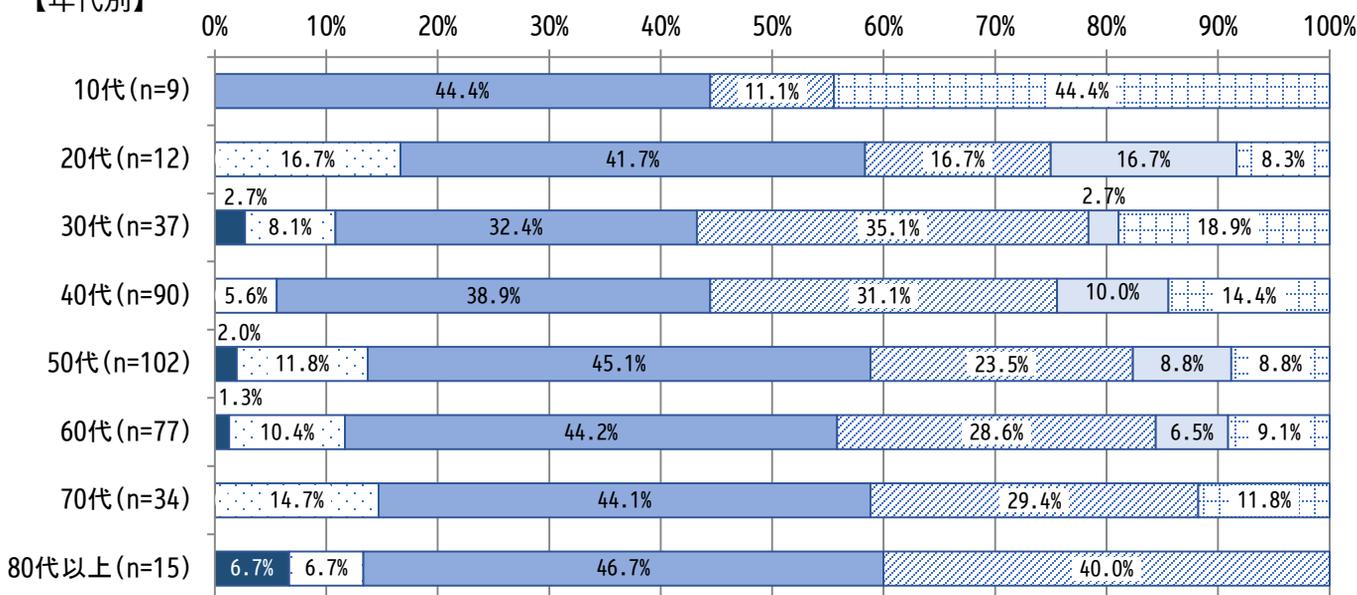
- ①「変わらない」と回答した方は全体の29.5%、「どちらかというと良くなっている」と回答した方は全体の21.0%、「わからない」と回答した方は29.5%であった。
- ②上の年代になるほど、「わからない」という回答の割合が減少し、「良くなっている」と「どちらかというと良くなっている」という回答の割合が増加した。女性よりも男性の方が悪化を感じた割合が高かった。
- 上の年代ほど、猪苗代湖の水環境に対して関心が高く、水環境が改善されていると感じていることが読み取れる。

問8 空気などの大気環境についてどう感じていますか？
(1つ選択)

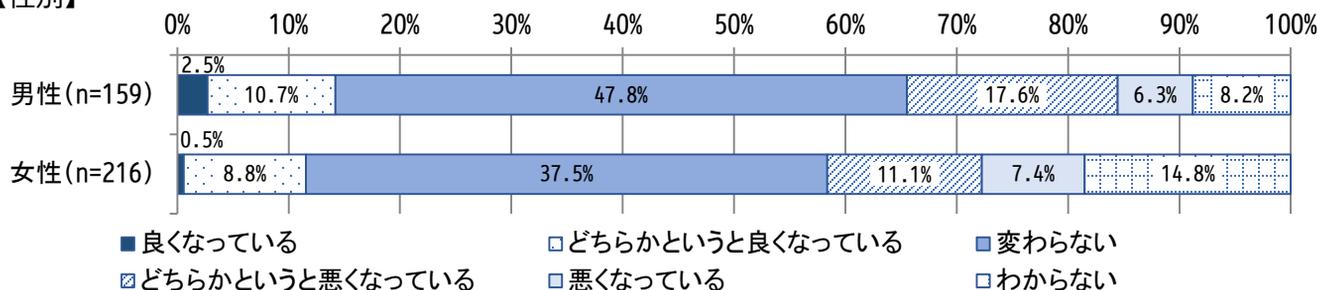
(回答者：376人)



【年代別】



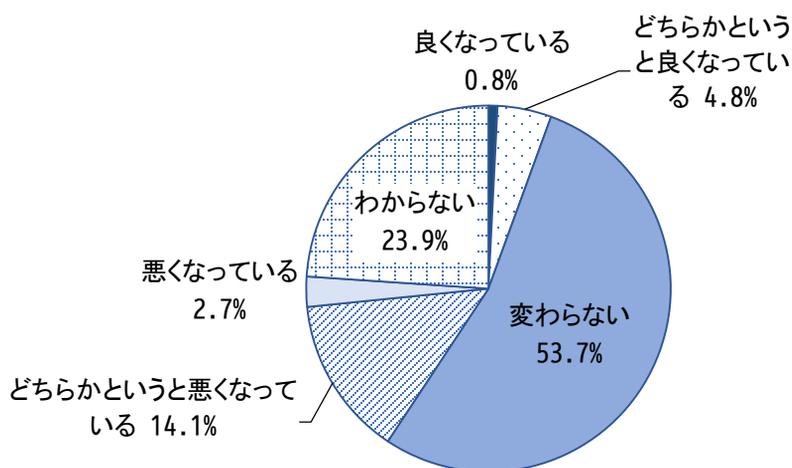
【性別】



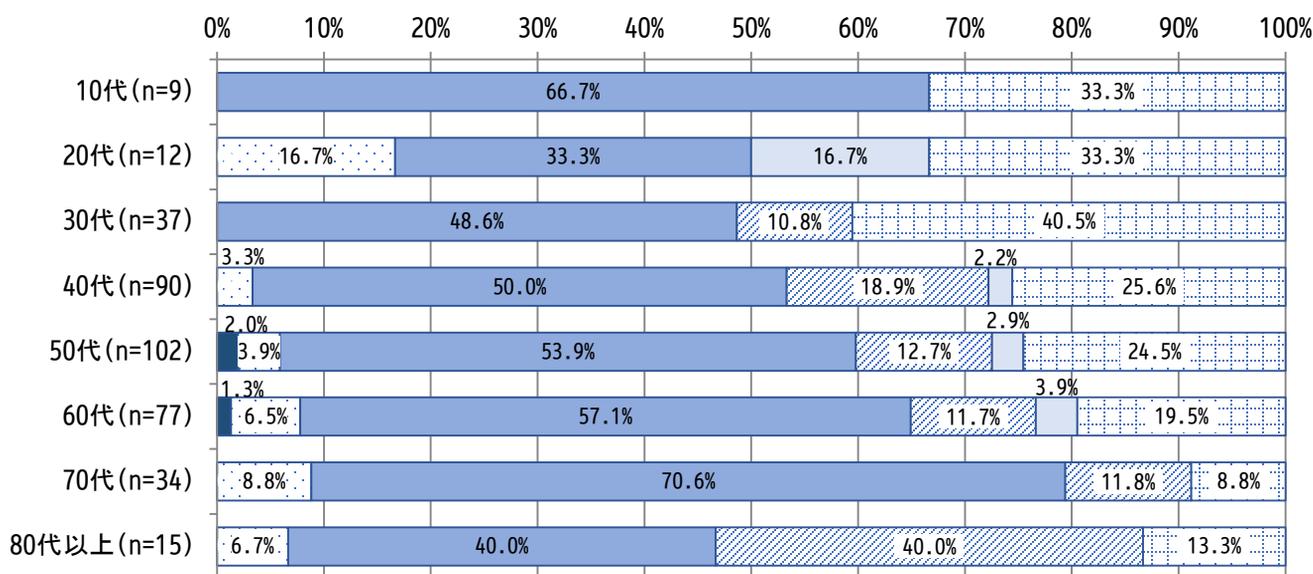
- ① 「変わらない」と回答した方は全体の42.0%、「どちらかというと悪くなっている」と回答した方は全体の28.2%であった。
 - ② 年代別では、特に80代以上において「どちらかというと悪くなっている」と回答した割合が高かった。また、女性よりも男性の方が悪化を感じた割合が高かった。
- 大気環境に大きな変化は感じられないが、どちらかというと悪化していると感じる方の割合が高いため、改善策を検討していく必要がある。

問9 近隣の土壤環境について、以前と比べてどう感じていますか？（1つ選択）

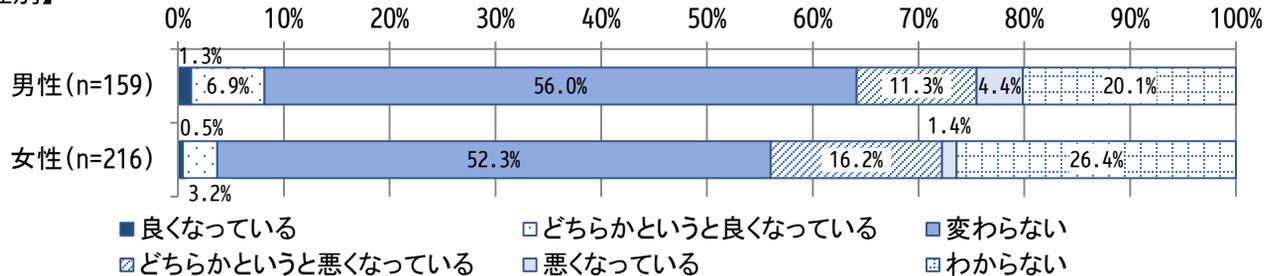
（回答者：376人）



【年代別】



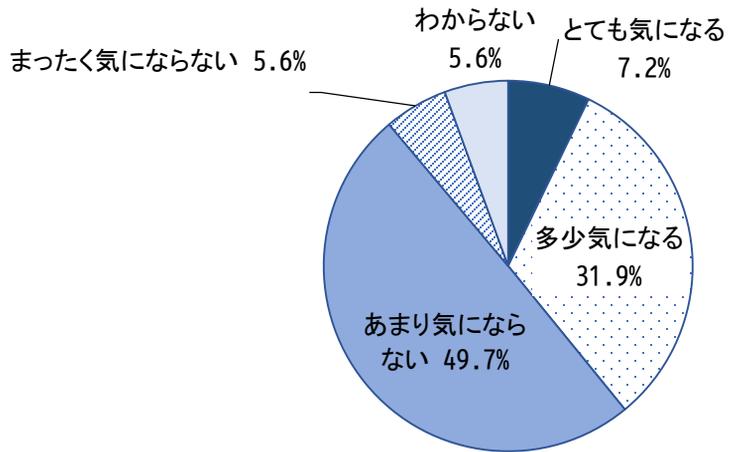
【性別】



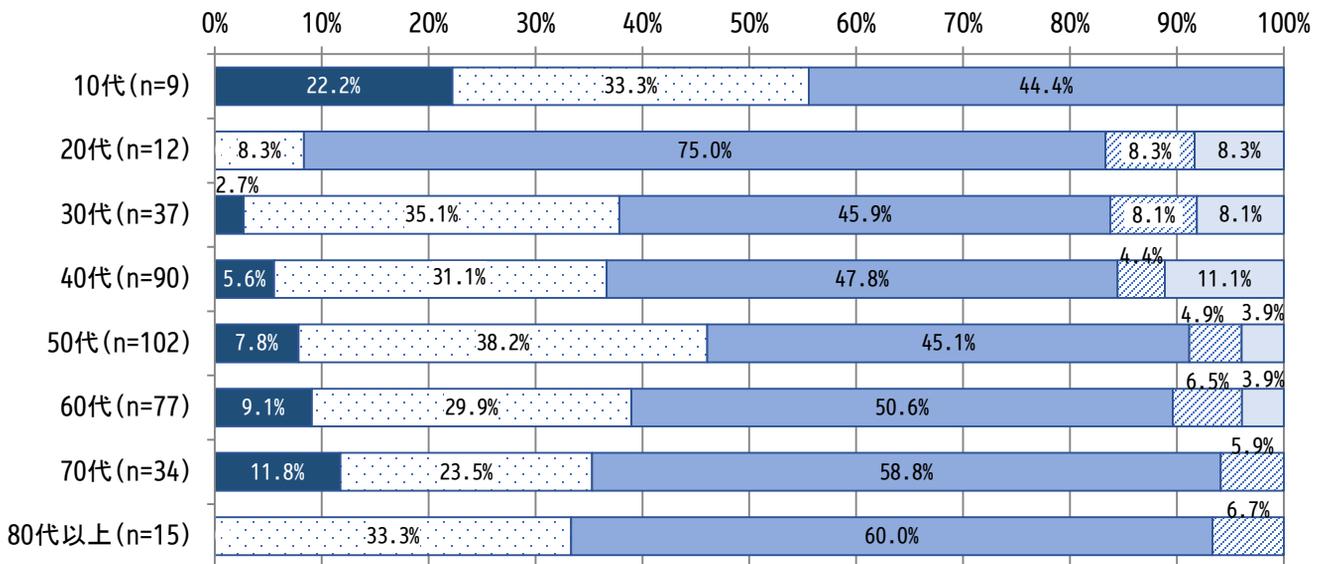
- ① 「変わらない」と回答した方は全体の53.7%、「わからない」と回答した方は全体の23.9%、「どちらかというと悪くなっている」と回答した方は全体の14.1%であった。
- ② 年代別では80代以上において「どちらかというと悪くなっている」と回答した割合が高かった。一方、30代以下で「わからない」と回答した割合が高かった。
- 周囲の土壤環境について意識を向けている人が少ない、または、土壤環境についての情報が不足していることが考えられる。

問10 工場や自動車の騒音、振動の状況についてどう感じていますか？
(1つ選択)

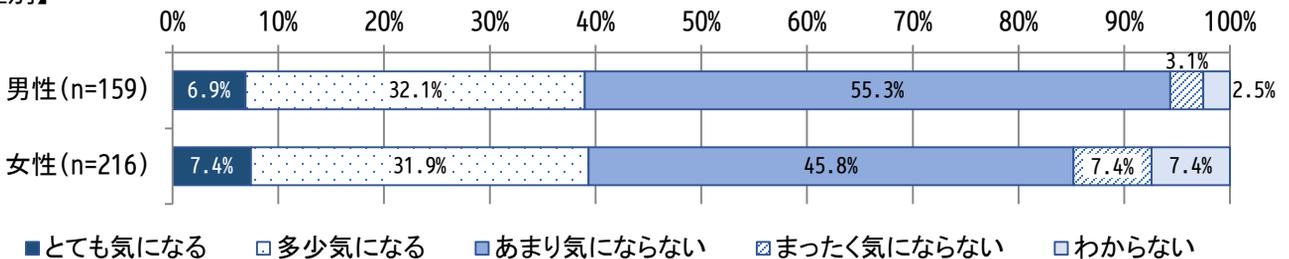
(回答者：376人)



【年代別】



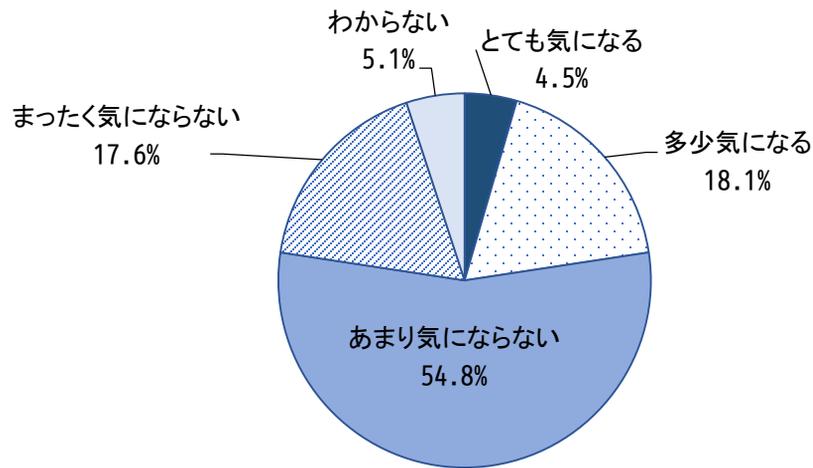
【性別】



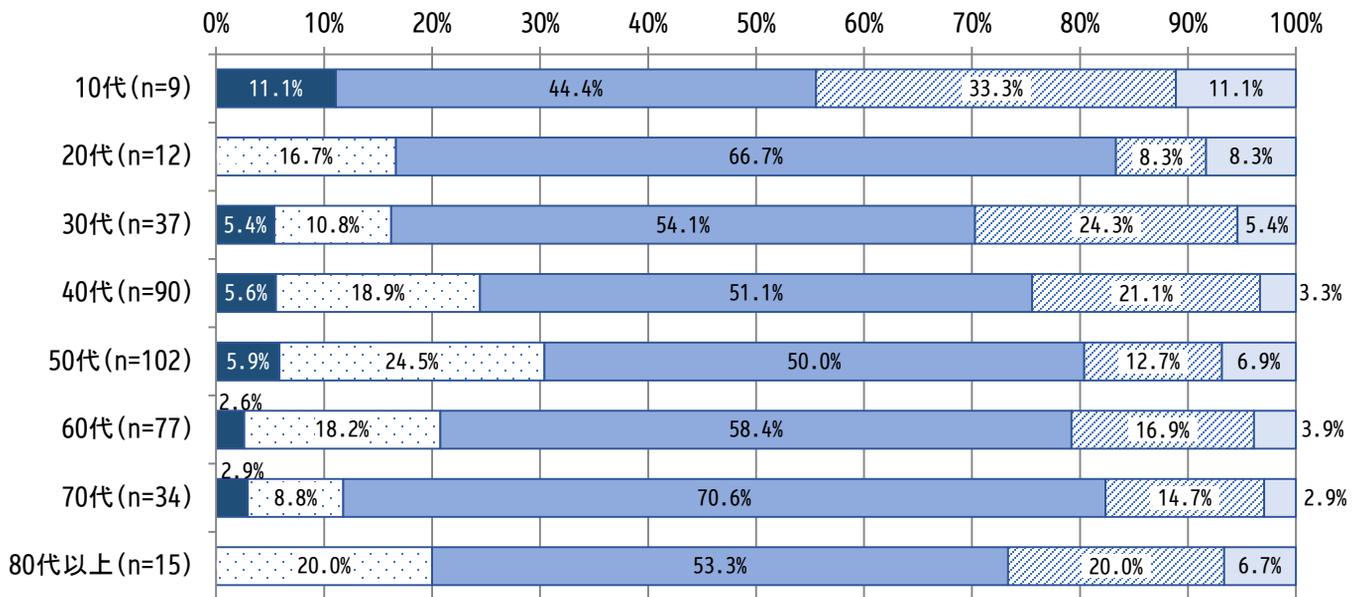
- ① 「あまり気にならない」と回答した方は全体の49.7%、「多少気になる」と回答した方は全体の31.9%であった。
- ② 年代別では20代において「あまり気にならない」と回答した割合が高かった。また、女性よりも男性の方が「あまり気にならない」と回答した割合が高かった。
- 気にならない人の割合が高い一方で、気になる人も4割近くいるため、改善策を検討していく必要があると考えられる。

問11 近隣の悪臭についてどう感じていますか？
(1つ選択)

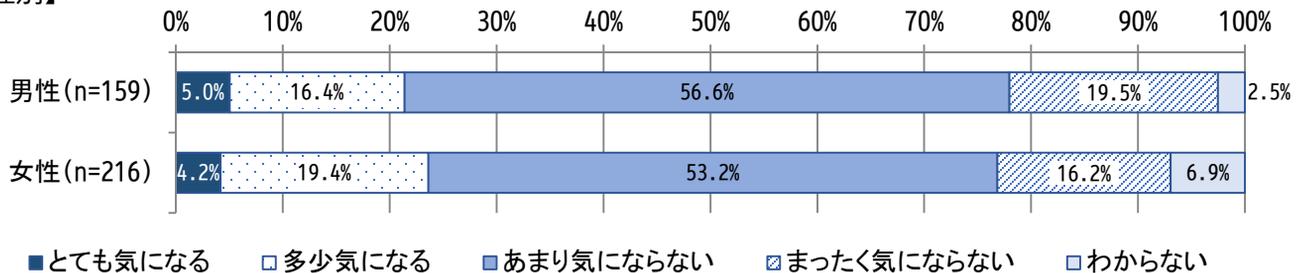
(回答者：376人)



【年代別】



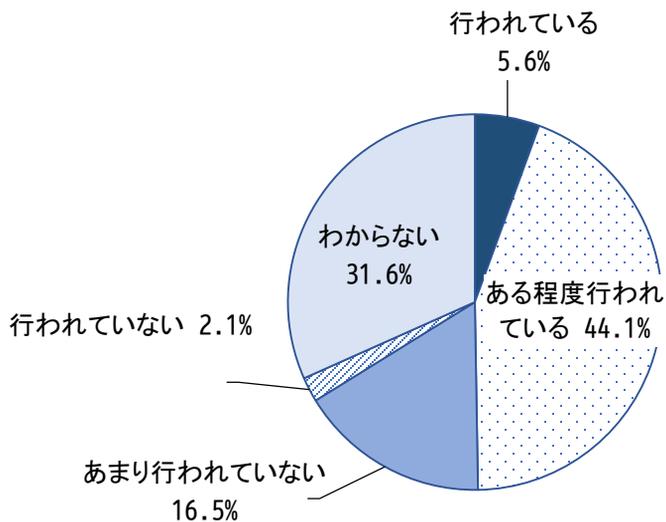
【性別】



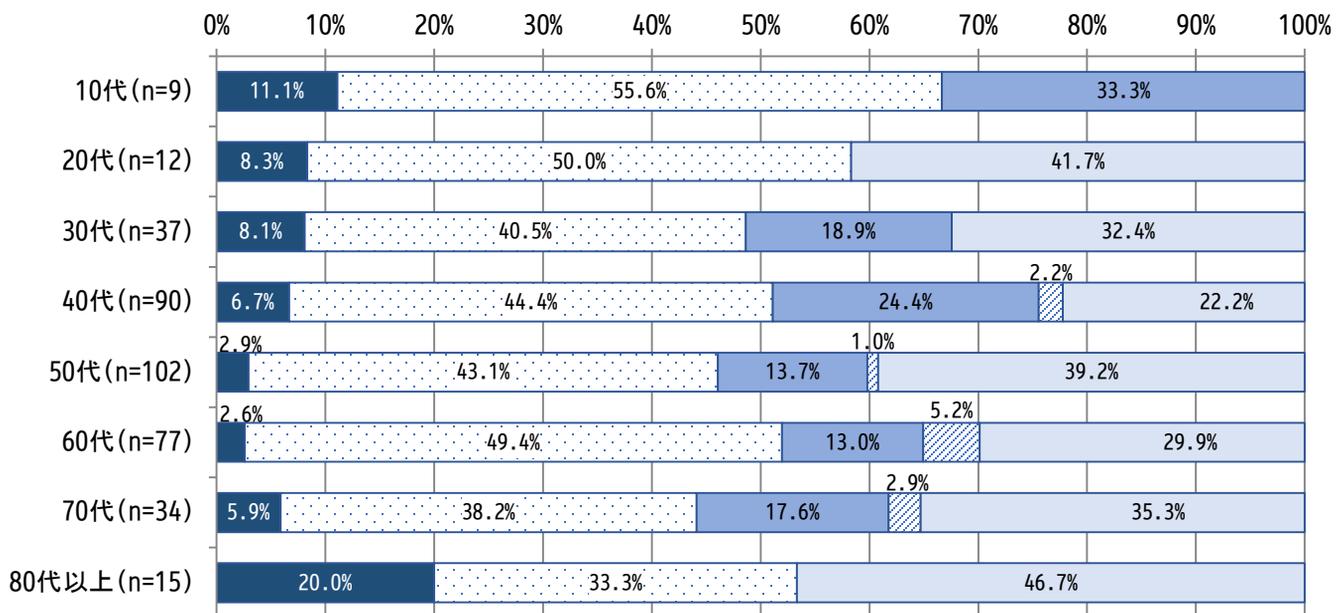
- ① 「あまり気にならない」と回答した方が最も多く、全体の54.8%であった。
 ② 年代別では40代、50代において悪臭が気になると感じている方が多かった。
 →全体としては、悪臭が気にならないと感じている方が多いが、気になる方も一定数いるため対策を進めていく必要があるといえる。

問12 地域や学校での環境教育は十分に行われていると感じますか？
(1つ選択)

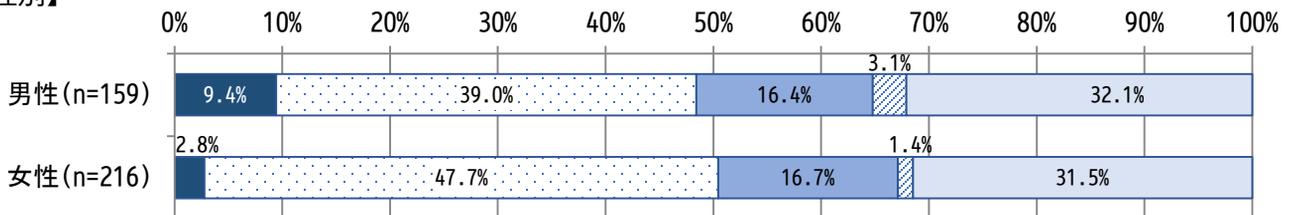
(回答者：376人)



【年代別】



【性別】

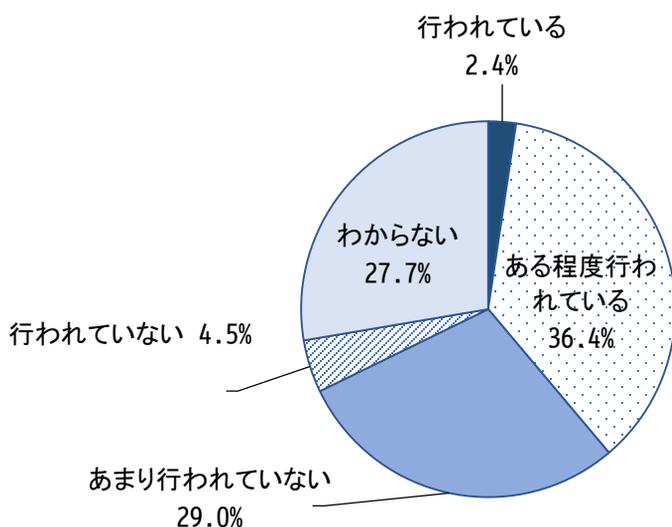


■行われている □ある程度行われている ■あまり行われていない ▨行われていない □わからない

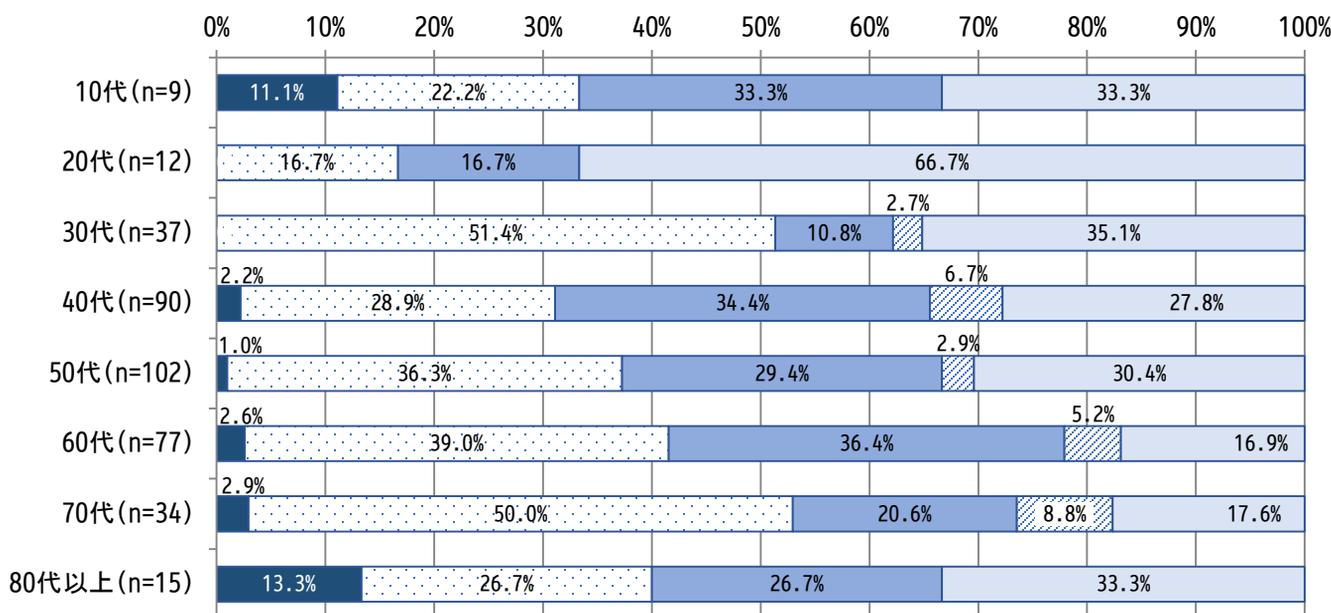
- ①「ある程度行われている」と回答した方は全体の44.1%、「わからない」と回答した方は全体の31.6%であった。
- ②年代別では40代において環境教育が行われていないと感じている方が多かった。
→現在、教育を受けていると考えられる10代を除くと、環境教育の実態を知らない方が多いことが読み取れる。環境教育の充実に取り組むとともに、情報発信を工夫する必要があると考えられる。

問13 市民参加の環境保全活動は十分に行われていると感じますか？
(1つ選択)

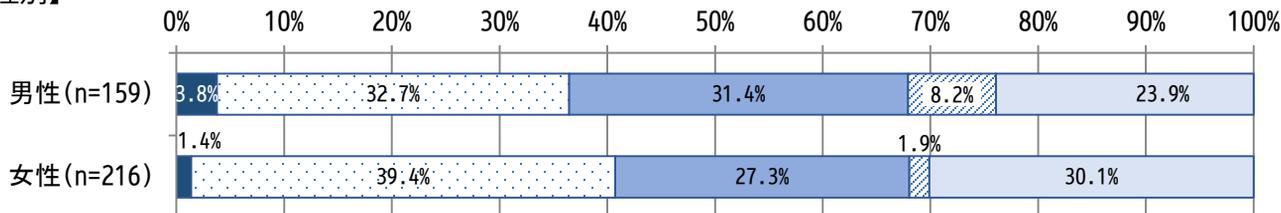
(回答者：376人)



【年代別】



【性別】



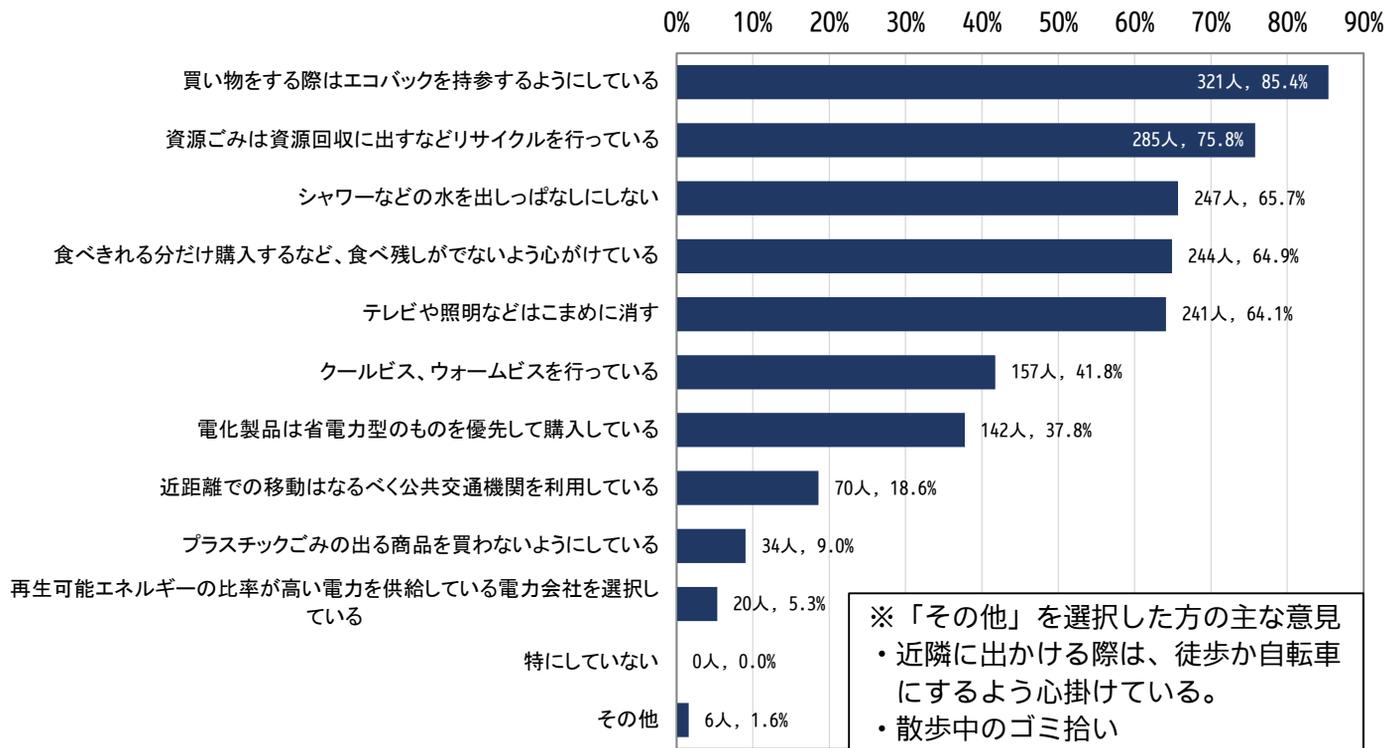
■行われている □ある程度行われている ■あまり行われていない ▨行われていない □わからない

- ①「ある程度行われている」と回答した方は全体の36.4%、「あまり行われていない」と回答した方は全体の29.0%であった。
- ②年代別では20代において「わからない」と回答した割合が6割以上だった。また、女性よりも男性の方が環境保全活動が行われていないと感じている割合が高かった。
- 環境保全活動が行われているかわからない方が多いことから、実施状況を知る手段が分かりづらい可能性があり、情報発信を工夫する必要があると考えられる。

第2章 環境の取り組みについて

問14 あなたが日常生活の中で環境に配慮している取り組みは何ですか？（複数選択）

（回答者：376人）



	エコバッグ	リサイクル	水を出しっぱなしにしない	食べ残しがでない	こまめに消す	クールビス
10代	55.6%	11.1%	33.3%	55.6%	88.9%	11.1%
20代	58.3%	41.7%	50.0%	58.3%	50.0%	33.3%
30代	80.6%	64.9%	69.4%	66.7%	73.0%	36.1%
40代	86.7%	73.3%	70.0%	66.7%	67.8%	45.6%
50代	87.3%	78.4%	57.8%	59.8%	58.8%	42.2%
60代	87.0%	89.6%	76.6%	71.4%	61.0%	48.1%
70代	94.1%	88.2%	73.5%	70.6%	76.5%	41.2%
80代以上	93.3%	66.7%	46.7%	53.3%	40.0%	26.7%

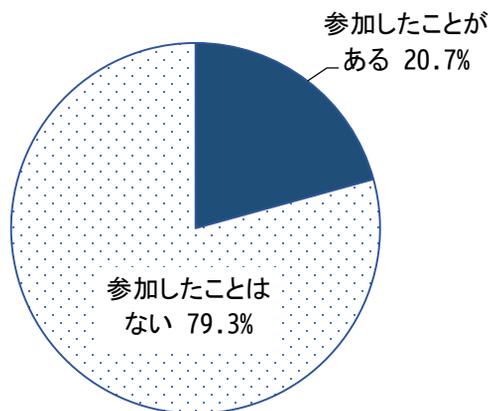
	優先購入	公共交通機関を利用	プラごみを買わない	電力会社選択	特にしていない	その他
10代	11.1%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	33.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%
30代	33.3%	8.3%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%
40代	32.2%	11.1%	8.9%	5.6%	0.0%	0.0%
50代	31.4%	22.5%	9.8%	2.9%	0.0%	2.0%
60代	53.2%	26.0%	13.0%	5.2%	0.0%	5.2%
70代	41.2%	17.6%	11.8%	14.7%	0.0%	0.0%
80代以上	60.0%	26.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%

■ 60%以上 ■ 50%以上 ■ 40%以上

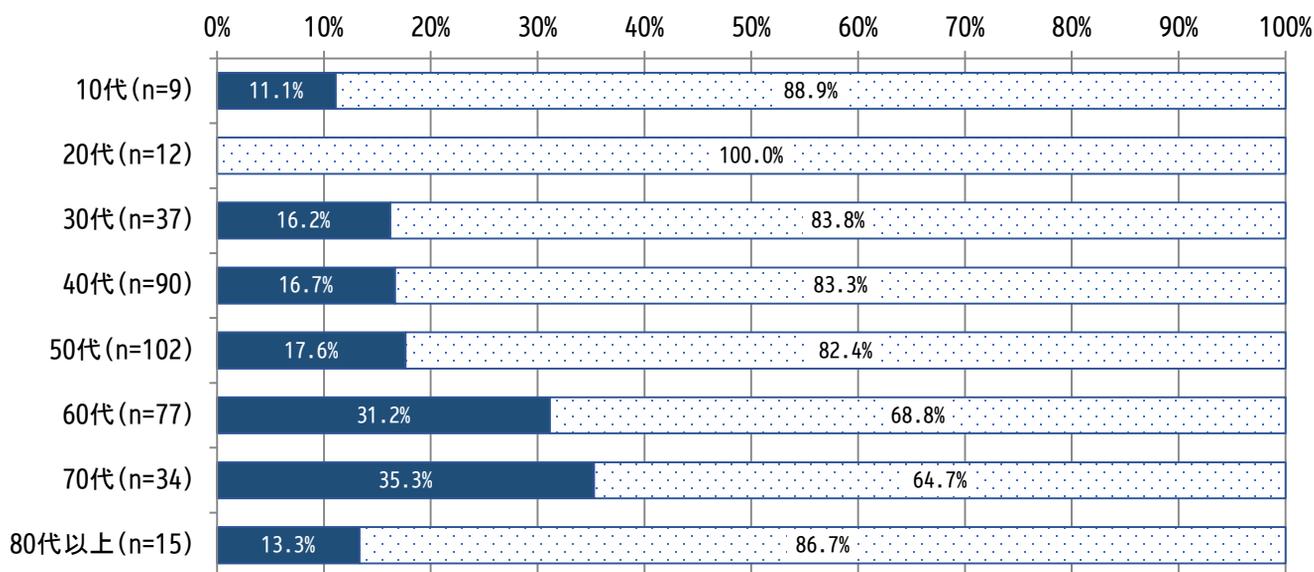
- ①「買い物をする際はエコバックを持参するようにしている」が85.4%、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」が75.8%と多かった。
- ②「買い物をする際はエコバックを持参するようにしている」は30代以上では8割以上と高いが、20代以下では半数程度と年代により差が生じている。
 →エコバッグの使用やリサイクルについては若者世代を対象に重点的に啓発する必要がある。

問15 環境保全活動に過去1年以内に参加したことがありますか？（1つ選択）

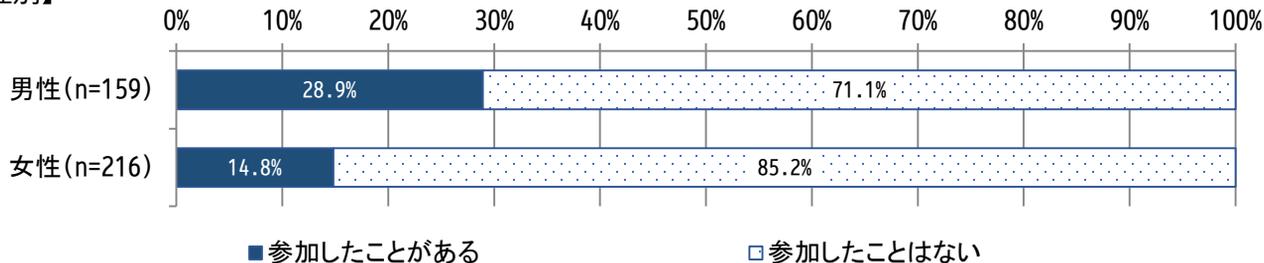
（回答者：376人）



【年代別】

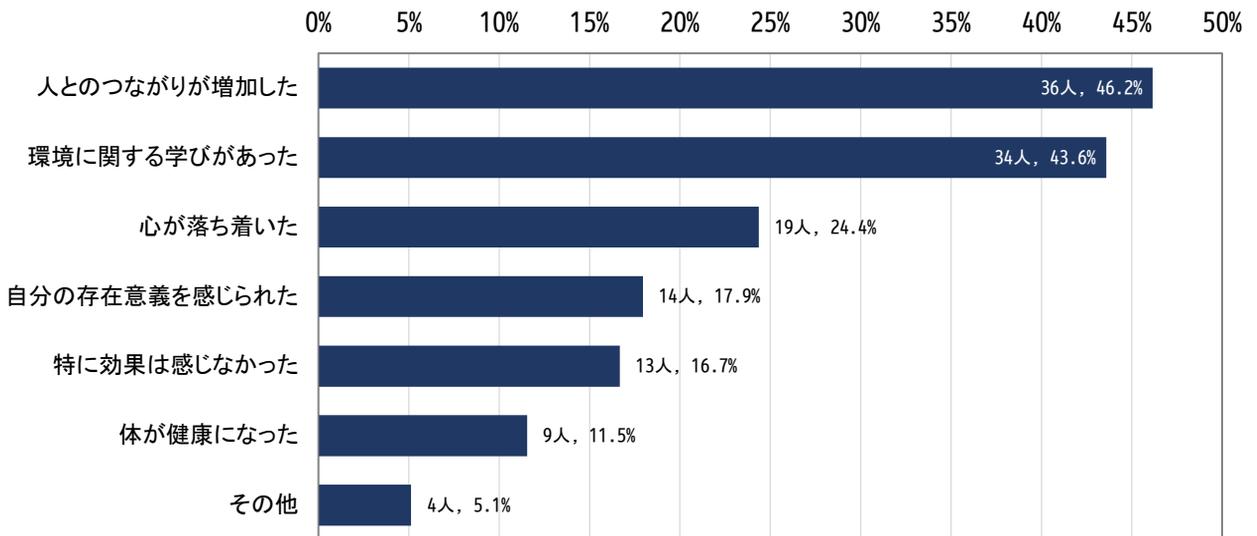


【性別】



- ①「参加したことはない」と回答した方は全体の79.3%であった。
 - ②年代別では20代の100%が「参加したことはない」と回答し、60、70代において「参加したことがある」と回答した割合が高かった。また、女性よりも男性の方が「参加したことはない」と回答した割合が高かった。
- 全体的に過去1年以内に環境保全活動に参加している人の割合は少なく、特に10代、20代の若者において顕著であった。若者が活動に参加しやすい仕組みを構築することが重要な課題であると考えられる。

問16 前問で「参加したことがある」を選択した方に伺います。環境保全活動に参加したことで感じる効果について教えてください。（複数回答可）（回答者：78人）



※「その他」を選択した方の意見

- ・地域で生活する者の務めと思うから参加した。
- ・ゴミの分別等、購入時から考える様になった。
- ・公的な環境保全活動に参加しても、個々人の日常生活やライフスタイルを変化させるほどの影響力はない。個々人の日常生活での「当たり前」の行動そのものに焦点を当てて、「当たり前と思いついでいる」一般常識を問題視しないかぎり環境問題は解決しない。
- ・環境問題に取り組むコンテンツを理解できた。

	人とのつながりが増加した	環境に関する学びがあった	心が落ち着いた	自分の存在意義を感じられた	特に効果は感じなかった	体が健康になった	その他
10代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	-	-	-	-	-	-	-
30代	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
40代	20.0%	53.3%	40.0%	26.7%	26.7%	33.3%	0.0%
50代	44.4%	50.0%	22.2%	11.1%	22.2%	5.6%	5.6%
60代	66.7%	37.5%	12.5%	16.7%	4.2%	4.2%	12.5%
70代	58.3%	25.0%	50.0%	33.3%	16.7%	8.3%	0.0%
80代以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%

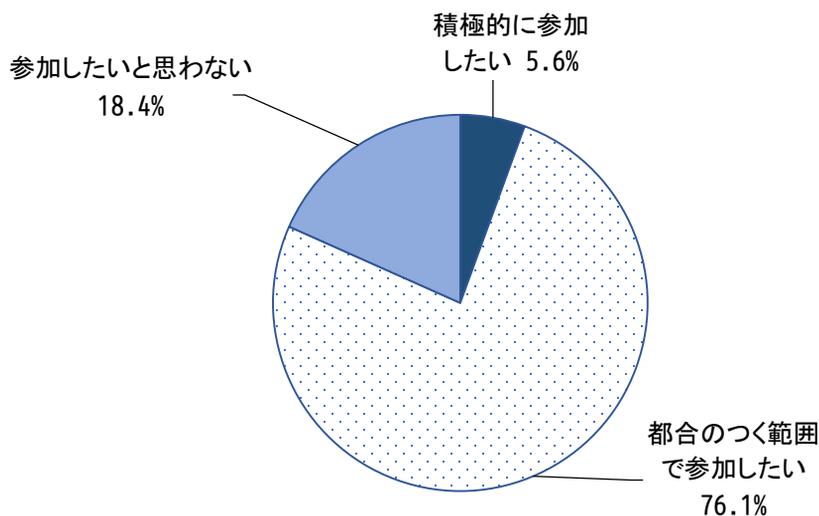
※20代は、前問において「参加したことがある」を選択した回答者がいない。（前ページ参照）

■ 60%以上 ■ 50%以上 ■ 40%以上

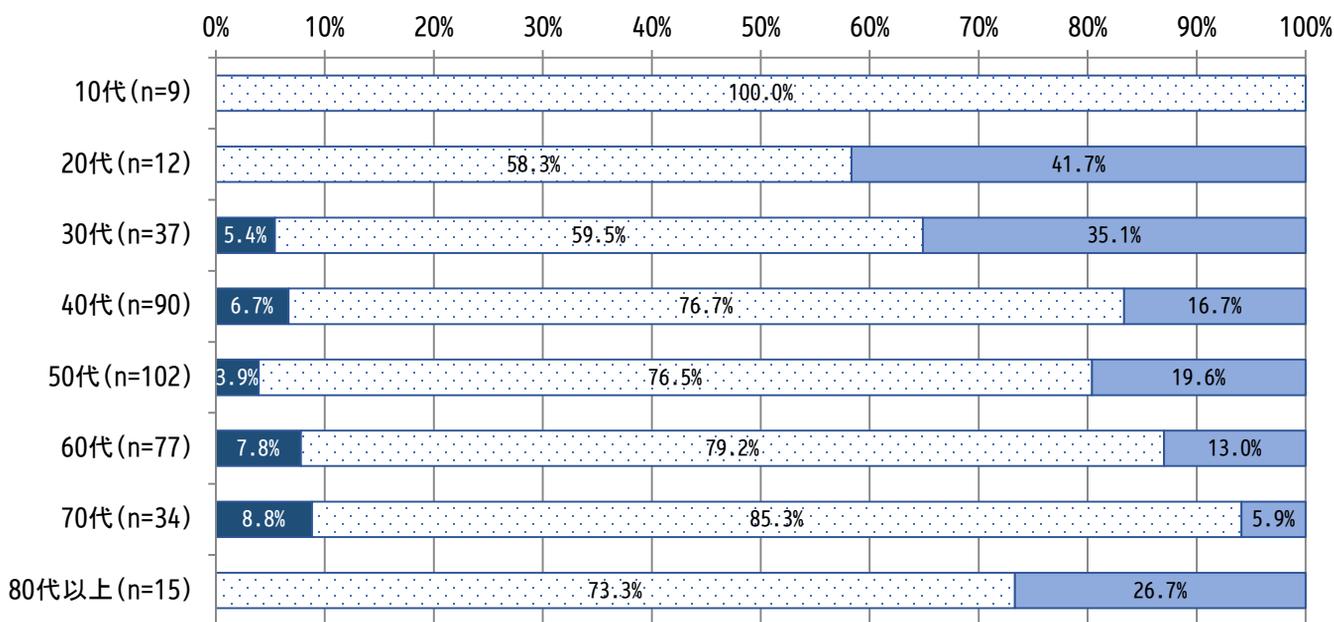
- ① 「人とのつながりが増加した」が46.2%、「環境に関する学びがあった」が43.6%と多かった。
 - ② 「人とのつながりが増加した」の回答の割合が50代以上で高いのに対し、「環境に関する学びがあった」は50代以下で半数以上と高かった。
- 環境保全活動に参加したとき、50代以下では環境の学び、50代以上では人とのつながりに効果を感じており、50代を境目にして効果の感じ方が変化していく傾向があると読み取れる。参加者の年代を考慮した活動を展開することで、環境保全活動への満足度向上を期待できる。

問17 環境保全活動に今後参加したいとしますか？(1つ選択)

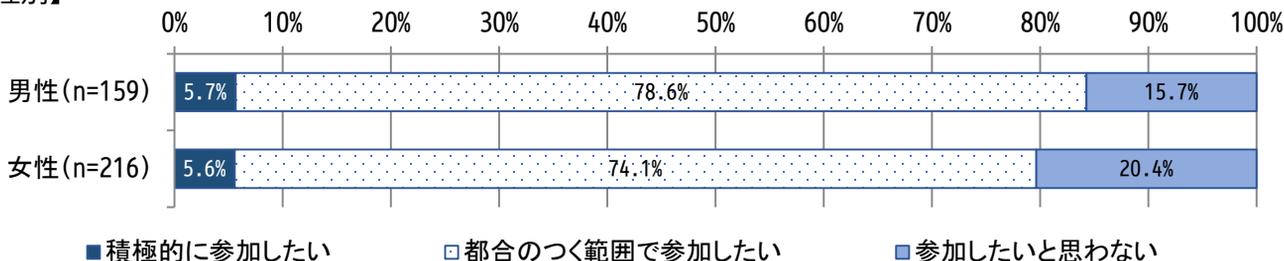
(回答者：376人)



【年代別】



【性別】

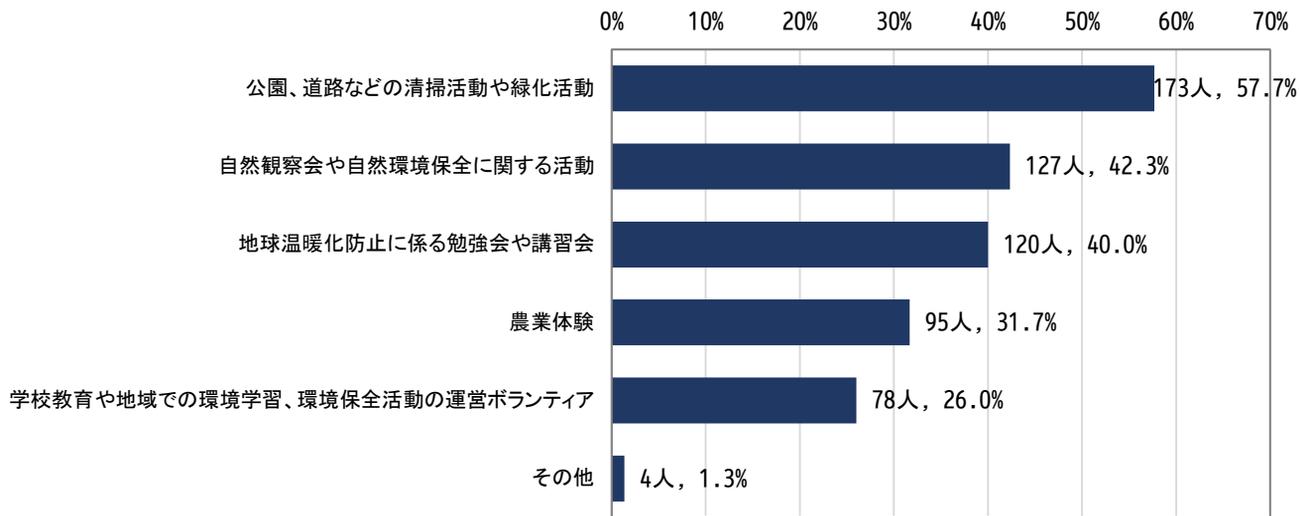


①「都合のつく範囲で参加したい」が76.1%と最も多かった。

②年代別では、20代と30代で「参加したいと思わない」と回答した割合が高かった。

→都合がつく範囲で参加したいと考える人の割合が高いため、参加しやすいように、複数の日程や様々な曜日を含むようにする等、活動日を工夫することが効果的であると考えられる。

問18 前問で「積極的に参加したい」及び「都合のつく範囲で参加したい」を選択した方に伺います。
参加したい環境保全活動は何ですか？（複数回答可）（回答者：300人）



※「その他」を選択した方の主な意見

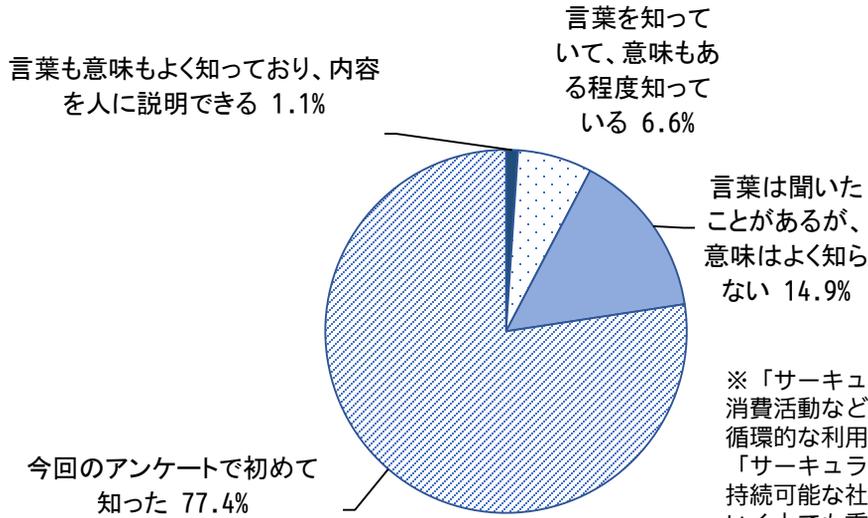
- ・生ゴミ堆肥化するEMボカシ容器やコンポスト容器の使い方指導。
（EMボカシ…EM菌（有効微生物群）に米ぬか、もみ殻、糖蜜等を混和し、発酵乾燥させてできた発酵合成型有機肥料）
- ・市からのテレビでの情報発信を増やしてほしい。
- ・現在取り組まれている環境活動を知る機会。
- ・町内会単位での草刈→草刈ゴミをゴミ処理場に搬出（郡山市の財政負担）という町内活動をやめるべき。
そして草刈が不要になる植物群落の育成に方向転換する。

	清掃活動や緑化活動	自然観察会や自然環境保全に関する活動	地球温暖化防止に係る勉強会や講習会	農業体験	環境学習、運営ボランティア	その他
10代	88.9%	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%
20代	28.6%	14.3%	57.1%	28.6%	42.9%	0.0%
30代	69.6%	39.1%	26.1%	30.4%	26.1%	0.0%
40代	50.7%	43.7%	40.8%	46.5%	33.8%	0.0%
50代	48.8%	39.0%	34.1%	39.0%	18.3%	1.2%
60代	60.0%	52.3%	49.2%	23.1%	30.8%	1.5%
70代	75.0%	46.9%	43.8%	12.5%	21.9%	6.3%
80代以上	72.7%	27.3%	45.5%	9.1%	18.2%	0.0%

■ 60%以上 ■ 50%以上 ■ 40%以上

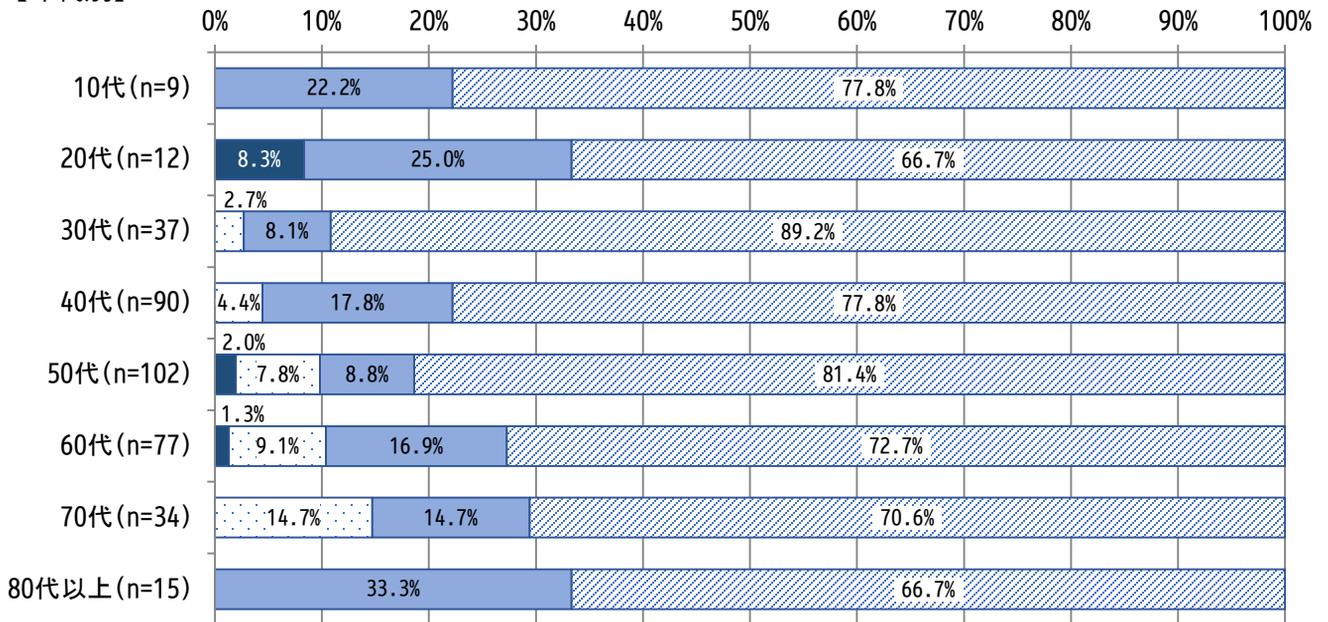
- ①「公園、道路などの清掃活動や緑化活動」が57.7%と最も多かった。
- ②どの年代でも「公園、道路などの清掃活動や緑化活動」という回答の割合が高かったが、20代では「地球温暖化防止に係る勉強会や講習会」、「学校教育や地域での環境学習、環境保全活動の運営ボランティア」と回答した割合の方が高かった。
→20代では環境についての情報を勉強し自ら伝える活動への関心が高いことが特徴で、他の世代は身の回りの環境を守ったり、知ったりする活動へ関心が高い傾向があった。

問19 郡山市では現在、「サーキュラーエコノミー」に係る取り組みを推進しています。あなたは「サーキュラーエコノミー」について知っていますか？（1つ選択）
 （回答者：376人）

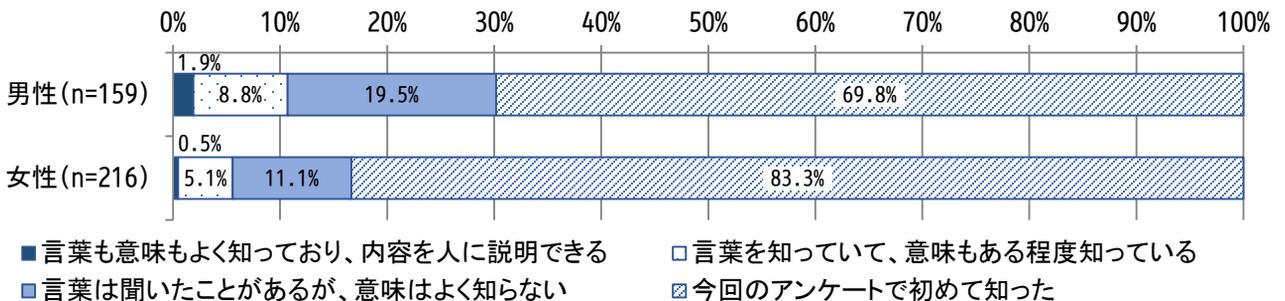


※「サーキュラーエコノミー」とは生産活動や消費活動などのあらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図る経済活動のことです。「サーキュラーエコノミー」を推進することは、持続可能な社会づくりと経済成長を両立させていく上でも重要です。

【年代別】



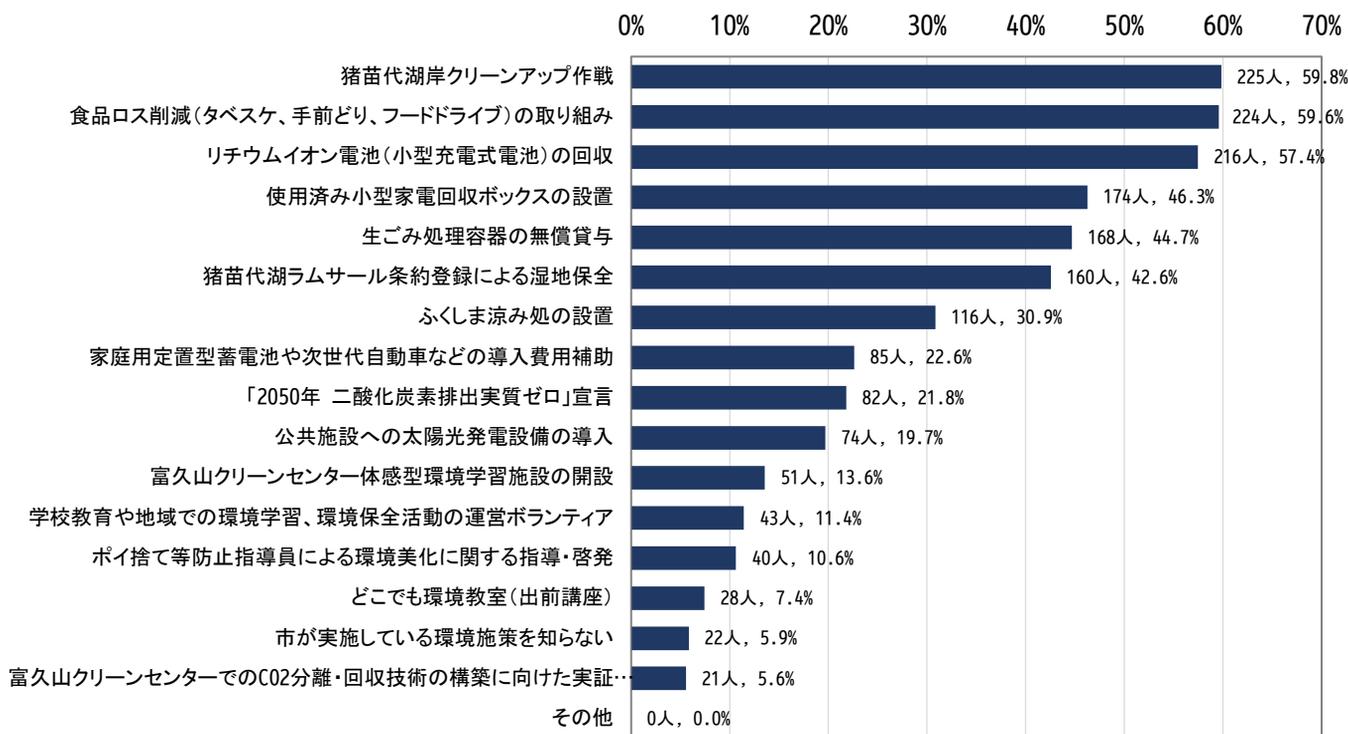
【性別】



- ①「今回のアンケートで初めて知った」と回答した方は全体の77.4%であった。
- ②年代別では、20代から70代において言葉と意味を知っている人がいたが、1割程度にとどまった。また、女性よりも男性の方が知っている人の割合が高かった。
 →今回初めて知った人は全体の8割近くにのぼった。サーキュラーエコノミーについて普及啓発するとともに、市民向けに情報発信する際には分かりやすい説明をつける必要があると考えられる。

問20 郡山市の環境施策について、知っている取り組みを選んでください。（複数回答可）

（回答者：376人）



	猪苗代湖岸クリーンアップ作戦	食品ロス削減の取り組み	リチウムイオン電池の回収	使用済み小型家電回収ボックスの設置	生ごみ処理容器の無償貸与	猪苗代湖条約登録による湿地保全	ふくしま涼み処の設置	蓄電池や次世代自動車など導入費用補助	「二酸化炭素排出実質ゼロ」宣言
10代	33.3%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%
20代	41.7%	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	41.7%	33.3%	33.3%	25.0%
30代	51.4%	70.3%	48.6%	40.5%	27.0%	43.2%	32.4%	21.6%	16.2%
40代	63.3%	62.2%	47.8%	38.9%	42.2%	33.3%	28.9%	18.9%	15.6%
50代	52.9%	64.7%	64.7%	52.0%	44.1%	38.2%	30.4%	20.6%	24.5%
60代	70.1%	55.8%	67.5%	54.5%	59.7%	50.6%	39.0%	29.9%	28.6%
70代	70.6%	55.9%	64.7%	61.8%	58.8%	61.8%	26.5%	29.4%	23.5%
80代以上	60.0%	33.3%	73.3%	40.0%	46.7%	60.0%	26.7%	13.3%	13.3%

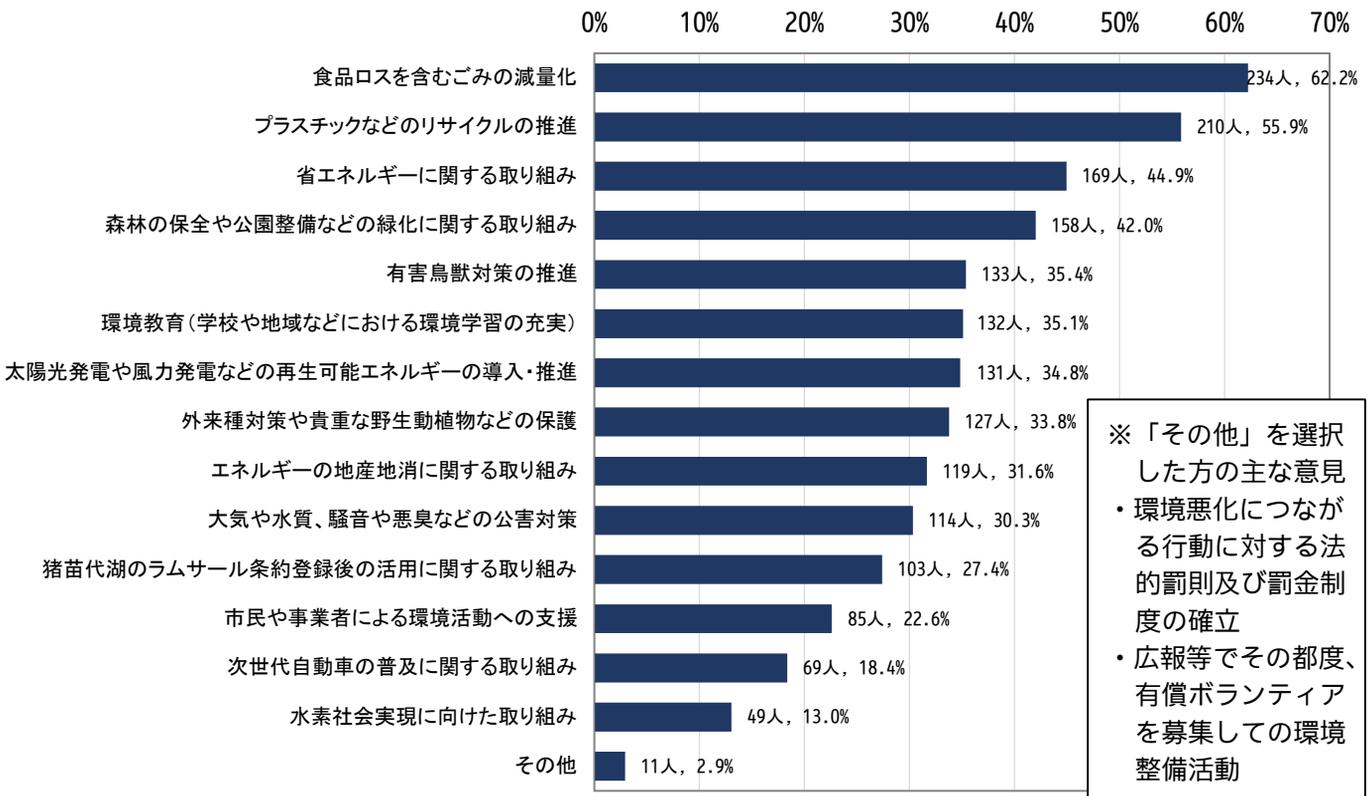
	公共施設への太陽光発電設備の導入	富久山クリーンセンター体感型環境学習施設の開設	環境学習、環境保全活動の運営ボランティア	ポイ捨て等防止指導員による環境美化に関する指導・啓発	どこでも環境教室(出前講座)	市が実施している環境施策を知らない	富久山クリーンセンターでのCO2分離・回収技術の構築に向けた実証実験	その他
10代	11.1%	0.0%	22.2%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%
20代	16.7%	16.7%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%
30代	16.2%	13.5%	10.8%	5.4%	2.7%	5.4%	8.1%	0.0%
40代	11.1%	14.4%	10.0%	2.2%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
50代	19.6%	12.7%	9.8%	12.7%	2.9%	6.9%	2.9%	0.0%
60代	26.0%	15.6%	13.0%	18.2%	11.7%	2.6%	6.5%	0.0%
70代	35.3%	11.8%	14.7%	14.7%	14.7%	2.9%	14.7%	0.0%
80代以上	20.0%	6.7%	13.3%	13.3%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%

■60%以上 ■50%以上 ■40%以上

- ①「猪苗代湖岸クリーンアップ作戦」が59.8%、「食品ロス削減（タベスケ、手前どり、フードドライブ）の取り組み」が59.6%と多かった。
- ②年代別では、30代から50代において食品ロス削減の回答割合が高く、50代以上で「リチウムイオン電池（小型充電式電池）の回収」の回答割合が高かった。10代～20代においては、施策の認知度が軒並み低かった。
→「二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」や「次世代自動車導入補助」など、市の重点施策である脱炭素関連の施策の認知度を上げる工夫が必要である。

問2 1 より良い環境づくりを進めるために、郡山市は今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか？（複数回答可）

（回答者：375人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・環境悪化につながる行動に対する法的罰則及び罰金制度の確立
- ・広報等でその都度、有償ボランティアを募集しての環境整備活動

	食品ロスを含むごみの減量化	プラスチックなどのリサイクルの推進	省エネルギーに関する取り組み	森林の保全や公園整備などの緑化に関する取り組み	有害鳥獣対策の推進	環境教育(学校や地域などにおける環境学習の充実)	再生可能エネルギーの導入・推進	外来種対策や貴重な野生動植物などの保護
10代	22.2%	11.1%	44.4%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	0.0%
20代	50.0%	50.0%	50.0%	41.7%	25.0%	25.0%	33.3%	33.3%
30代	67.6%	48.6%	27.0%	27.0%	27.0%	35.1%	35.1%	24.3%
40代	56.7%	55.6%	44.4%	37.8%	37.8%	38.9%	34.4%	35.6%
50代	56.9%	52.0%	44.1%	46.1%	32.4%	30.4%	25.5%	31.4%
60代	72.7%	59.7%	50.6%	48.1%	44.2%	40.3%	36.4%	40.3%
70代	70.6%	73.5%	44.1%	50.0%	41.2%	41.2%	55.9%	47.1%
80代以上	80.0%	73.3%	66.7%	53.3%	33.3%	26.7%	53.3%	20.0%

	エネルギーの地産地消に関する取り組み	大気や水質、騒音や悪臭などの公害対策	猪苗代湖のラムサール条約登録後の活用に関する取り組み	市民や事業者による環境活動への支援	次世代自動車の普及に関する取り組み	水素社会実現に向けた取り組み	その他
10代	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	41.7%	8.3%	8.3%	16.7%	50.0%	8.3%	0.0%
30代	21.6%	21.6%	29.7%	13.5%	29.7%	16.2%	2.7%
40代	30.0%	21.1%	18.9%	20.0%	18.9%	11.1%	0.0%
50代	24.5%	38.2%	25.5%	19.6%	12.7%	11.8%	2.9%
60代	46.8%	35.1%	32.5%	28.6%	18.2%	13.0%	5.2%
70代	35.3%	32.4%	47.1%	41.2%	14.7%	20.6%	8.8%
80代以上	20.0%	53.3%	46.7%	26.7%	20.0%	20.0%	0.0%

■ 60%以上 ■ 50%以上 ■ 40%以上

- ①「食品ロスを含むごみの減量化」が62.2%、「プラスチックなどのリサイクルの推進」が55.9%と多かった。
- ②年代別では、70代以上において7割以上がごみの減量化やリサイクルの推進に力を入れて取り組むべきだと回答した。20代において、次世代自動車の普及に関する取り組みへの回答割合が比較的高かった。
→ごみの減量化やリサイクルの推進といった5Rに関する取り組みやエネルギー分野の取り組みを重点的に、より良い環境づくりを進めていく必要があると考えられる。

問22 郡山市の「環境」について、課題やご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。
(回答者：114人)

※10代の方からの回答はありませんでした。
※自由記述の回答内容において、一部校正を施している箇所があります。

太陽光パネルの設置について

太陽光パネルで覆われた土地を見かけるが、景観があまり良くない印象を受ける。(50代・女性)

山林への太陽光パネルの設置については、制限する方向で進めてほしい。(50代・男性)

山林を切り拓いての太陽光パネルの設置には反対である。かえって自然破壊につながる。それよりも大型施設や戸建ての太陽光設置に力を入れたほうが良いと思う。(50代・女性)

郡山市に限らず、自然環境を破壊してまでのメガソーラーや、騒音公害があるうえに発電効率の悪い風力など、本末転倒にならないよう、リスクとベネフィット、原価と粗利(環境+効率)を意識した活動をすべきだ。(40代・男性)

福島県でも太陽光発電パネルをよく見かけるが、環境破壊に繋がっていると思う。国の方針も理解できるが、これ以上設置しない方が良いと思う。使用済みパネルの廃棄を考えるとエコではない。福島市でも大規模パネル設置に規制をかけているが、福島県の自然を守る活動の方を重視して欲しいと思う。(50代・女性)

今後建設するビルやマンションは、屋上に太陽光発電パネルを設置するようにすると良いと思う。東京都のように義務にするのはやりすぎだと思うので、ほどほどにした方が良い。(40代・女性)

風力発電や太陽光発電も環境破壊につながるケースもあるので、地域住民と充分相談の上、取り組んでほしい。(60代・女性)

最近、郡山市だけでなく大型太陽光パネルの設置が増えていると感じる。太陽光パネルは廃棄までを考えると効率的ではないといった話も聞く。そのあたりの費用対効果や環境への影響などを広報などで周知してほしい。(50代・男性)

福島市で問題になっている太陽光パネル設置問題の二の舞にならないようにしてほしい。悪質業者の言い訳で損失を被るのは市行政と市民であり、監視や精査を速やかに行える仕組みを作ってほしい。(50代・男性)

メガソーラーのために環境が破壊されるという、本末転倒な事態に陥っているように思う(郡山市に限らず、全国的に)。熊被害が増え始めたのも、山の食べ物が減った理由が気候の問題だけではなく、メガソーラー建設のために森林を伐採したことにもあると思う。環境対策を市として取り組むのであれば、山にメガソーラーを設置することは制限したほうが良いと思う。(40代・男性)

新築時に車庫の上などに太陽光発電パネルを設置することを援助し、推進する。山の斜面の太陽光発電は景観が悪く気になる。(50代・女性)

メガソーラーを設置するために森林伐採が進んでいるが、それだけでなく植林もある程度はしてほしい。環境の変化により水害などが発生するため、森林は必要である。(60代・女性)

最近では温暖化による猛暑が続いている。人間はもとより農作物や畜産にも影響が出ている。さらに対策を講じる必要があると感じる。ただし、森林を伐採して太陽光パネルを増やすのは適切ではないと感じる。森林が減ることによる影響が怖い。省エネの自動車や家電の購入に補助金があれば望ましい。(50代・女性)

ごみの分別・回収・資源化について

ゴミの分別は良くなっていると思うが、総量は多いままである。資源ごみと間違えやすい物を具体的に示してほしい。(50代・女性)

生ゴミを各家庭で処理する方法について、講習会などを開催してほしい。(70代・女性)

ゴミ屋敷対策として、不燃ごみ、粗大ごみ、収集できないゴミを廃棄できる業者の情報開示が必要である。市がリチウム電池の回収に乗り出したことは評価できる。以前は家電量販店や携帯ショップに出していた。有料でも責任を持って処理できる業者の情報を開示することが、家庭の不要品廃棄の迅速化につながる。物は購入した瞬間に金銭的価値がゼロになる。故障したり使用しなくなると、ガラクタになる。その点について断捨離の専門家に講義を依頼しても良いのではないかと。(50代・男性)

ゴミの分別が正しくできるよう町内会にも働きかけて、中核市として誇れる環境にしていきたいと思う。(60代・女性)

ゴミサクに載っていないプラスチックゴミの分別に迷う。「タベスケ」のアプリはもっとわかりやすい操作にしてほしい。袋型コンポストを試験モニターでとり入れるのはどうか。知らなかった補助金があった(蓄電池)。(40代・女性)

震災以降、放射能を理由に側溝の泥上げや清掃を行わなくなり、夏場は悪臭が漂っている。市に連絡しても消臭剤をまくだけで、根本的な解決には程遠い状態である。いつまでも震災を理由にせず、前に進むべきではないか。(40代・男性)

庭木類は可燃ゴミで収集しているが、腐葉土などとして活用できるのであれば、別に収集できると良いと思う。(60代・男性)

環境と農政のつながり(前者)を重視し、一般庶民の排出ごみの資源化(後者)をより精密に検討すべきである。前者については、山形県長井市のレインボープランを参考にし、家庭の生ごみを最大限コンポスト化する方向で施策を考えてほしい。後者については、家庭の植栽剪定残渣が「燃やしてよいゴミ」として排出されている現状がよく見られる。(60代・男性)

ごみの収集日にはマナーを守らない(分別しない、前の日に出す等)のを見かける。郡山市でもゴミの「有料化」を検討すべきだと思う。(60代・男性)

環境における「エネルギー」と「リサイクル」は、まったく別分野である。まだ問題の多いエネルギーは、コストの面でも失敗が考えられる。市で行うべきことは、ごみリサイクルのみに注力することである。(50代・男性)

郡山市はプラスチックごみの分別も細かく、良いと思う。また、パソコンなどの小型家電の回収ボックスが市民センターにあるのも助かる。小さい子も参加できる、環境について体験しながら学べるイベントがあると良いと思う。(30代・女性)

町内によって、ゴミ置き場の管理が徹底しているところとそうでないところがある。マンションなどで生ごみを収集日以外に出しており、カラスの被害が出ているところもあった。小さなことかもしれないが、ゴミ出しルールの徹底や指導があれば良いのではないかと。おおいの問題やカラスの被害も少しは減ると思う。(50代・女性)

町内のゴミ集積所に曜日を守らずに出している人がいる。分別も守らず、ドライブスルー感覚で通りすがりでゴミを出している人も見かける。貼り紙をしても効果がなく、困っている。(70代・女性)

ごみの分別について、もっとわかりやすくポスターなどを製作したほうが良いと思う。通勤族の多い街なので、分別の仕方がわからないままごみを出している方は多いと思う。引っ越して来たら「これをお願いします」くらいの態度で対応しないと、ごみは減らないと思う。(40代・女性)

以前はゴミ捨て場の出し方が非常に悪く、近隣の人と分別をしない人との間でトラブルになる手前だった。しかし、ゴミ捨て場に出された廃材でゴミ捨て場を整備したところ、ようやく分別してきれいに使用してくれるようになった。(40代・女性)

郡山市に限らず、福島県全体でゴミの排出量は全国的に高いため、リサイクルなどの対策を進める必要があると考えている。不良品はメルカリなどのフリマサイトを活用するなど、少しでもゴミにならない工夫をすれば、ゴミの消費量は減るかもしれない。(20代・男性)

牛乳パックなら何枚で何キロになるか、ペットボトルなら500ml何本で何が作れるか、新聞紙何日分でトイレットペーパー何個分になるかなど、目に見える訴え方を考えたほうがわかりやすいと思う。町内会で回収する際の報奨金が1kgあたり5円はずっと変わっていないため、そろそろ金額を上げるなど見直しが必要だと思う。高齢者や子供たちも積極的に資源回収に参加しやすい、積み立てポイントカードを使った郡山市独自の取り組みも考えていけば良いのかもしれない。(50代・女性)

ゴミ収集日の周知徹底を図る。決められた日以外にゴミ出しをする人が散見されるためである。(80代・男性)

福島県はゴミの量が全国的にワーストだそうだが、我が家では市の無償コンポストを利用し、生ごみは全量自家処理に努めている。(80代・男性)

家庭ごみの排出量が福島県、郡山市は全国でも多いと知り、子供にもゴミ分別方法を教えている。自分でもゴミ分別をしてみて感じたことは、プラスチック包装や紙ごみが非常に多いことであった。各家庭がしっかり分別すれば、排出量はかなり減るのではないかなと思う。しかし、家庭ごみをゼロにすることは難しく、人口減少による税収不足もあるため、ごみ処理施設や焼却灰の埋め立て施設の維持管理費は必要になる。このことから、仙台市や二本松市のように色別した有料ゴミ袋を購入させ、利用者負担を促すべきである。(40代・男性)

緑地環境、公園環境について

五百淵公園へウォーキングに行く機会があるが、時々ゴミが捨てられていて残念である。小さなゴミは拾って持ち帰れるが、空き缶などを拾っても近くに捨てる場所がなく、残念である。公衆トイレなどにゴミ箱を設置することはできないだろうか。(50代・女性)

実益を兼ねて、車を使わず歩くようにしている。ここ数日は暑くて歩くのも大変だが、酒蓋公園の中を歩くと木陰になっている場所は風が通り、涼しくて気持ちが良い。カッコウの鳴き声もよく聞こえる。家の近所に南川溪谷がある。涼しそうだが、治安の点で少し不安があり、1回しか通ったことがない。見通しが悪すぎる気がする。同じくカッコウも鳴いており良い環境だが、行く気にならないのが残念である。(60代・女性)

環境教育・勉強会などについて

今後、町内会や協議会で説明会や勉強会を行ってほしい。(50代・男性)

やはり子どもたちへの環境保全の教育が、大人たちへの教育にもつながると思う。例えば郡山市で行う猪苗代湖のクリーン作戦も、3名以上のグループ参加という条件ではなく、少人数でも参加できるようにすれば、参加者は増えると思う。(70代・女性)

農業体験などを通じて食育や環境問題を考えられるよう、小さいうちから学校などで時間を増やして教育してほしい。(50代・女性)

既に行われていると思うが、企業向けの「会社でできる環境保護活動」のような出前講座があると良いと思う。(40代・男性)

猪苗代湖・ラムサール条約について

猪苗代湖がラムサール条約に登録されたニュースを見たが、今後のルールや目標などをSNSを通じて情報発信してほしい。(50代・女性)

猪苗代湖のゴミが毎年増えており、福島県民としては悲しい。観光地であるため、ゴミのポイ捨て禁止を周知する看板を、子どもたちのアイデアでポジティブな言葉を用いて設置してみてはどうかと思う。ホテルが見られない市になってしまったことも悲しく思う。(40代・女性)

水(猪苗代湖)に恵まれ、またきれいな空気や交通の便利さもあり、近郊の市町村より恵まれた環境に住んでいると思う。(80代・男性)

ラムサール条約登録を機に猪苗代湖の水質を改善する施策を推進してほしい。(60代・女性)

猪苗代湖畔の公衆トイレの新設を検討してほしい。現状の古くて臭くて汚いトイレでは、せっかく観光客が来ても魅力が半減されてしまう。(40代・女性)

鳥獣害について

逢瀬中学校の近くに熊が出没した際、数日間は先生方による巡回等をしていただいたが、その後は周辺環境の対策がとられていない。秋になると冬眠前に食料を求めて人里に近づくようなので木の伐採や除草、電気柵の設置等の対策を早急にしてほしい。駅前の側溝には枯葉やタバコの吸い殻等が蓄積されているが、清掃した様子が全くない。郊外地域と同じように地域住民で清掃活動をしてほしい。(40代・女性)

こここのところ自然が多いところで熊が出ているニュースをよく見るので、子どもとそういうところに行くのを躊躇してしまう。被害が出る前に何か対策してもらえると安心である。(40代・女性)

私が街を散策して感じるのは、ゴミ集積所におけるゴミの散乱である。カラス等の食い散らかし被害に遭わないよう、ゴミ集積所の形態、出し方など、地域の実情に合わせた創意工夫が必要だと思う。(60代・男性)

有害鳥獣対策として、郡山近郊にクマが出没している。逢瀬公園、片平近郊、磐梯熱海温泉等で安心して散歩ができない。対策を望む。また、郡山駅付近でカラスの群れを見かける。以前、鷹で追い払う対策が行われていたと思う。音や光などによる駆除対策を望む。(60代・男性)

有害鳥獣対策には本当に力を入れてほしい。開成山付近の住民は、朝夕の鳴き声や羽音による騒音、糞害・抜けた羽などによる衛生環境の悪化に悩んでいる。街路樹や個人宅の大木、その付近の電線などに必ずやってくる。駅前も同様であるが、住宅街である開成山付近は特に深刻な問題だと思う。(30代・男性)

鳥の糞害や鳴き声による騒音をなんとかしてほしい。(50代・女性)

道路で猪に何度も遭遇し、郡山東高校裏では狸を目撃した。昔と比べて雀も少なくなった。人と獣の境に里山があったが、今はなくなったせいかもしれない。底辺の生き物が少なくなるとピラミッドが崩れ、住環境に影響を及ぼすと聞いたことがある。住環境に変化が見られることは、誰もが理解しているだろう。市民一人ひとりが小さなことから始めれば、大きな変化につなげることができるかもしれない。(50代・女性)

自動車・大気環境・騒音について

道路も整備され、交通渋滞も少なくなり（場所にもよるが）、良いことだと思うが、自転車、歩行者の専用レーンが少ない気がする。（60代・男性）

10年ほど前から大気汚染がひどくなっているように感じている。住宅街に住んでいるが、少し離れた田畑の多い地域とは空気が違う。洗濯物にも嫌な臭いが付いていたりする。このようなことは、以前はなかったと思う。（50代・女性）

うねめ通りでは二輪バイク等の騒音がひどく、うるさい。旧車については法令の対象外となっているものもあると思うが、品のない自動車や二輪が通行できないような、市の条例を作ってほしいと思う。（50代・男性）

公共交通機関として、CO2発生量の少ないトラム（路面電車）の設置を望む。私の住む地域には大学と2つの高校があり、工業団地もあるため、朝夕のラッシュアワーのCO2排出量は高いと思う。高齢者は安心して歩けない。（60代・女性）

公共交通機関の利用促進を図ってほしい。駅前ロータリーでの送迎待ちによる渋滞や待ち時間のアイドリングなど、環境面からも早急な改善策を望む。（60代・男性）

公共交通を利用するよう如果说のであれば、バスの台数を増やすなど、選択でき方法を整備してほしい。（60代・女性）

停車中の車のエンジン停止を呼びかけてほしい。大型スーパーの駐車場で、無人の車がエアコンをかけたまま停車しているのを頻繁に見かける。「自分さえ快適であれば」の気持ちで、環境を悪化させる一因なのだろう。広報こおりやま、TVのスポット情報などで呼びかけてもらえないだろうか。（80代・男性）

気候変動（地球温暖化）について

地球温暖化が進み、郡山では35度以上が当たり前になってきた。このままでは生活がしづらくなったり、食物が育たない環境になり、物価高につながってしまわないかとても心配である。何とかして対応してほしい。（30代・女性）

温暖化で子どもたちが夏に外で行う活動に制限が出ている。これは、将来的に健康問題にも繋がると思う。根本的な意識改革も必要だが、同時に屋外に日陰を作るなどの対策を行ってほしい。（30代・女性）

今住んでいる環境は静かで鳥の鳴き声も聞こえるため、それほど深刻には考えていない。しかし、子どもの夏休みで思うことは、暑すぎて学校プールの開放がなくなったり、外遊びができなくなったりすることで、そうした点は温暖化の影響で非常に残念である。（40代・女性）

地球温暖化に関する市民へのアピール等をもっと多くやってほしい。（80代・男性）